

合格体験記(R1)

令和元年度大学入試

合格体験記

加納	楓	東北大学 工学部 材料科学総合学科	『合格体験記』
関口	鈴乃	茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科	『公募推薦入試』
平野	唯香	筑波大学 人文・文化学群 人文学類	『木を見て森も見る』
方波見	千里	筑波大学 医学群 医学	『千里の道も一歩から』
保立	紘希	信州大学 工学部 建築学科	『合格体験記』
濱田	凧沙	千葉大学 教育学部学校教員養成課程乳幼児教育コース	『合格体験記』
西山	由紀	お茶の水女子大学 文教育学部 言語文化学科	『AO と推薦の不合格、乗り越えて前期。』
高栖	香乃	お茶の水女子大学 文教育学部 人文科学科	『妥協しない。』
城之内	厚介	東京農工大学 農学部 生物生産学科	『合格体験記』
藤井	圭吾	一橋大学 経済学部 経済学科	『合格体験記』
野口	智哉	東京大学 理科一類	『合格体験記』
上坊	志緒	東京工業大学 物質理工学院	『合格体験記』
伏見	美春	金沢大学 人間社会学域 地域創造学類	『合格体験記』
佐藤	孔明	京都大学 文学部 人文学科	『求めよ、さらば与えられん。』
春田	倫沙	青山学院大学 国際政治経済学部 国際政治学科	『合格体験記』
根本	真綾	慶應義塾大学 法学部法律学科	『合格体験記』

〔 合格体験記 〕

40期生 加納 楓

【進学した大学・学部・学科】

東北大学 工学部 材料科学総合学科

【他に合格した大学・学部・学科】

東京理科大学 理学部 化学科
 芝浦工業大学 工学部 情報工学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

未定。
 教授から自分の進路に幅を持たせておくように言われているため
 手当たり次第学んで、やりたいことを見つける。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

中3頃から進路を意識し始め、材料工学に興味を持つ。
 高1の時にその分野で強かった東北大のオープンキャンパスに行ったところ、雰囲気自分に合っていると感じたため受験を決定。

【生活の記録】

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 登校日			起床		電車				授業					電車		夕食	風呂	自由		就寝		

7限等で下校が遅れた日は自由の部分がなくなる。
 電車は主に朝は睡眠、夕方は自由としていた。
 自由の部分は趣味、睡眠、勉強等を含む。

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 休み				起床	朝食				勉強						夕食	風呂		勉強		就寝		

日中は図書館を活用した。
 2時間に1度ほど休憩をはさみ、昼食も適宜食べた。
 気乗りしない時は散歩に行ったり、家事をしていた。

【実力考査の対策・復習】

補習回避のため世界史はテキストを使って対策した。

日々の授業を軽んじないこととテスト前に早く寝ることが1番の対策だと思う。

テスト後は自己採点の際に解説を読むくらいしかしていなかった。

【センター試験対策】(センター受験科目： 国語 数学ⅠA・ⅡB 英語 化学 物理 世界史)

一通りの過去問を普通に解き、落とした部分を教科書等で補強する。

次に、1週目と同じ問題を80%程の時間で満点が取れるようになるまで解き直す。

最後に、50~60%の時間で満点をとれるように仕上げる。

ポイントとしては、上記の3ステップを複数の教科で同時に行い、間を開けることで問題自体を覚えないようにしていた。

このやり方には、既存の問題に慣れすぎてしまうという欠点があるので、

時折センタープレ等の初見の問題を解くように心がけていた。

試験前日は早く寝てコンディションを整えた。

【二次試験(記述)対策】(二次試験科目： 小論文 面接)

AOⅢ期を受験できるかどうか未確定だったためセンター前までは前期の対策を行っていた。

高2の終わりほどから過去問に手を付け、授業で教科書が終わったところから本格的に解き始めた。

最初は時間を気にせず、解けるまで取り組み、分からなかった問題は同級生や先生に教えてもらった。

志望校の同じだった同級生達と正答率を競いあったりもした。

慣れたころには、試験時間を減らして、高い精度で解き終えることを目指した。

センター後、AOⅢ期の出願を決定してからは先生にお願いして面接の練習や

小論文の添削指導を行っていただいた。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目： 数学 物理 英語 世界史)

数学と物理は片っ端から公式を導出し、定理を証明した。

加えて問題集の解説を捨てて解答のみにし、分からなければ教科書に立ち返るなり

人に聞くなりするようにして根本からの理解を目指した。

英語はどう頑張っても単語帳や文法書での学習を続けることができなかったので

長文問題をひたすら解き、問題に慣れることにした。

世界史はどうしてもやる気が出なかったため、正月明けまで放置し、背水の陣を

敷いて無理やり取り組んだ。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

コツコツと継続して、まんべんなく勉強し続けること。

私は諦めた。

最初のころは努力したが、どうにも耐えられなかった。

しかし、もともとの性格を活かし、徹底的にメリハリを付ける事で結果を得ることができた。

人と同じやり方に囚われず、己に合った方法をとることもいいと思う。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

私は受験前まで全く勉強しておらず、定期考査前日にBBQしていたくらいだったので、普通に補習に引っかかっていたし、高3でも30点台を取ったりしており、全くもって成績のいい方ではなかった。

そんな私でも合格できた秘訣(数字)、受験に役立つ格言(漢数字)を紹介する。

- | | |
|------------------|----------------------------|
| ① 志望を変えない。 | 一 知彼知己、百戦不殆。不知彼而知己、一勝一負。 |
| ② 信頼できる先生方に師事する。 | 二 勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし |
| ③ 善い行いを心がける。 | 三 塞翁が馬 |
| ④ 周りへの感謝を忘れない。 | 四 We Shall Never Surrender |
| | 五 Aは危ない、Bはビビれ、Cはチャンスあり。 |

【合格への軌跡】

4月	大学の説明会に参加し、モチベーションを得る。しかし、まだほぼ勉強しておらず、よく映画を見たりしていた。	夏休み前	平日は勉強していなかったが、気が向いた土日に図書館や喫茶店で多少勉強していた。 夏休みに問題演習をしようと思っていたが、問題演習のためにはある程度の前提知識が必要である、と気づき6月の終わりくらいから勉強に手を付け始めた。 まずは基礎を確立したかったので教科書の例題レベルから解き始めた。
5月	定期考査などがあつたはずだが、全く勉強した記憶がない。		
6月	アプリで勉強記録を付け始める。 土日に勉強し始めたが、月で12時間しか勉強していない。		
7月	大学の説明会に再度参加し、モチベーションを補充。ようやく勉強を始める。	夏休み	序盤は計画通り問題演習を行えたが、中盤失速してしまった。 スケジュールの詰めすぎが原因だったので、この経験から休憩の重要性を学ぶ。 学校で配られた重要問題集、青本を用いた。
8月	夏期講習をほぼフルで取っていたが、これはとても良かった。実験の講座は本当におすすめなので、あつたら取ったほうがいいです。		
9月	台風で部屋のエアコンが壊れる。 また、停電、断水が続いたため、モチベーションが湧き、蝋燭を立てて勉強した日もあつた。	夏休み後	ひたすら青本を解き、苦手だと思った分野を教科書や学校配布の問題集を用いて補強した。 センター対策は授業で行われていたもののみで、自主的には全く行っていなかった。 12月半ばになってから、周りからそれはまずいと指摘を受け、取り組み始める。 この時に数学の重要問題集、センター過去問を購入し、取り組み始める。
10月	東北大オープンに備え、青本を重点的に演習していた。しかし、数学、英語をおろそかにしてしまっていた。		
11月	東北大オープンの300点満点の数学で50点を切る。他教科も悪く、判定も勿論悪かった。この出来事のおかげで、モチベーションを補給できた。		
12月	前半は変わらず二次対策を行っていた。 後半からセンター対策を始める。		
1月	前半はそれまでの人生で最も勉強した。 自己採点は88%程。 当初の目標を達成したためAOⅢ期にも出願した。		
2月	面接、添削指導を行ってもらいつつ、二次の対策も継続した。私大の、センター利用で受かっていそうなところの入試には行かず、体力を温存した。中旬、無事合格。	自由登校	学校に通った。 質問するとき以外は集中するために1人になろうと、研修室など空き教室を利用した。 また、志望が同じ同級生たちと競いながら過去問を解くことでモチベーションを確保した。
3月			

〔 公募推薦入試 〕

40期生 関口鈴乃

【進学した大学・学部・学科】

茨城県立医療大学保健医療学部看護学科

【他に合格した大学・学部・学科】

特になし

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

心理学や哲学を学ぶこと、提携校への留学などを経験し、多様な人に寄り添える人間力を養いたいと考えています。そして、母性看護学やウィメンズヘルス看護学を深く学び、助産学専攻科へ進学し、お産を中心として、女性を生涯支えることができる助産師を目指しています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

高校一年生から看護職を目指し、授業中に先生が話題にしたことがきっかけで茨城県立医療大学を意識し始めました。高校二年生の中頃に助産師を目指し始めました。オープンキャンパスに参加し、四年間で看護師と保健師の資格を取得し、五年目に助産師の資格を取るというカリキュラムになっていることを知りました。助産実習の期間が長い点に魅力を感じ、茨城県立医療大学を第一志望としました。

【生活の記録】

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 平日 部活なし					起床	勉強	授業							移動	勉強			帰宅 夕食	娯楽	入浴	就寝	

8時前に登校し、HRまでの四十分間に教室で前日学習した内容を覚えているか確認していました。授業中の自分が解けた問題解説の時間に、その日の問題の復習をし、国数のセンター対策は授業内で終わらせました。放課後は、近所の学習室へ行き、主に生物と世界史を教科書と学校配布の問題集で勉強していました。

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
高3 休日					起床	朝食	移動 勉強				昼食	勉強							帰宅 夕食				

近所の学習室で勉強していました。午前は、学校配布の英語長文問題を二題解きました。その時わからない単語はメモし、翌朝と一週間後に確認しました。お昼はロビーのテレビを見ながら、一時間かけて昼食をとっていました。午後は、世界史と生物と化学基礎をその時の気分で選び勉強していました。

【実力考査の対策・復習】

センター対策を模試対策と考え、模試は意識しませんでした。復習は、間違えた問題の直しが中心でした。数学は繰り返し同じ間違い方をしたら、模試の直前に見る用のノートにメモをし、注意する習慣を付けました。どの科目もあまりにも成績が悪い単元は、翌週中に必ず教科書を復習しました。苦手な国語は、友人に考え方を教わりました。

【センター試験対策】（センター受験科目：国語、数学ⅠAⅡ、英語、生物、生物化学基礎、世界史）

国語と数学は基本的に授業内で済ませました。英語は学校配布の問題集と模試の復習をしました。受験用の単語帳を使わない代わりに、長文内の知らない単語の意味と語法を必ず覚えていました。生物は教科書と問題集の往復を繰り返しました。問題集の解説がわからないことも多く、先生に質問に行きました。模試で教科書にない知識が出てきた場合は、教科書に書き込みました。理科基礎は、教科書で基礎を確認し、問題集は応用問題のみ解きました。世界史は、授業内で理解し、先生が作ったテキストの名詞を4割程青ペンで隠し、でひたすら暗記しました。文化史は資料集も使いました。

【推薦入試対策】（二次試験科目：総合問題、小論文、面接）

高校二年の三月に総合問題の過去問を解き、出題範囲を把握しました。基本的には、センター対策を総合問題対策としました。センター試験で使う予定はありませんでしたが、物理基礎も基本の確認はしました。小論文は医療系小論文の参考書を読み、頻出の医療単語を覚えました。過去問を三年分解き、先生に添削してもらいました。面接は、複数の先生に面接練習をお願いし、想定できる質問の数を増やしました。大学のシラバスの中から興味のある授業を見つけ、オープンキャンパスの時にその授業についての詳しい説明を聞きました。入試直前には、姿見の前で自分の話している状態を確認しながら練習しました。看護体験の参加も、自分の考えがよりはっきりとし、面接入試に役立ったと思います。

【苦手科目をどう克服したか】（苦手科目：小論文）

小論文は先生に添削してもらい、添削理由がわからない時は直接話しながら教わりました。また医療系ニュースや社会問題に自分なりの意見を持つ癖をつけた。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

生物の勉強が計画より遅れた時は、焦燥感が生まれ辛かったです。覚えたことと覚えていないことを、整理し勉強しなければならないことを明確にしました。やる気がなくなった時は、友人が勉強している姿を思い浮かべました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

志望理由書は、授業進度と関係なく準備できるため高校二年生のうちに準備するととても楽になります。また、私は推薦入試が不合格だった場合は一般前期も後期も受けるつもりだったので、推薦入試の時はあまり気負いせずに済みました。体調不良で学校に行けなくなるとやる気を無くしたり、昼夜逆転したり悪循環が続くので、布団から出られてお熱がない日は登校した方がいいです。自分が思うより、先生方は心配してくれています。

【合格への軌跡】

4月	<p>体育祭 衣装長と救護係長の仕事に追われ、忙しくも充実していました。</p>	夏休み前	<p>高2の3月に推薦入試の総合問題を解き、英語、漢字、理科基礎のセンター対策が総合問題対策になると考えました。生物の勉強をセンター試験に間に合わせることに、世界史の知識を忘れないことの二点を重視していました。英語は特に力を入れる期間はありませんでしたが、授業の合間などの空き時間を使い語彙を毎日増やしていました。長文読解の問題で文構造や文法を勉強しました。国語と数学は授業でのみセンター対策をしました。夏休み直前に、先生と面接練習をしました。想定できる質問への回答を準備しました。</p>
5月	<p>体調不良 Part1 GW中から体調を崩し、あまり登校できませんでした。家では集中力が続きませんでした。</p>		
6月	<p>受験勉強本格開始 世界史と生物のテキストを最初からやり直しました。数学の基礎を固めました。</p>		
7月	<p>推薦対策開始 国語と数学は授業内のセンター形式の演習のみ。生物の勉強が計画より遅れ、さらに生物に力をいれました。一度、面接練習をしました。看護体験に参加しました。</p>		
8月	<p>続かない集中力 夏休み前半は、教科書と問題集を中心に勉強しました。後半から急激にやる気を無くし、前半の40%程度の勉強量になってしまいました。</p>	夏休み	<p>看護体験に参加しました。その経験から感じたことを面接への回答に付け加えました。まとまった時間を取りやすいため、英語の長文読解を増やしました。数学はセンターの過去問を時間を計って解きました。</p>
9月	<p>体調不良 Part2 8月末から体調を崩し、布団の中でも持ちやすい医療系小論文の参考書を読んでいた。体調が回復した後は、生物の教科書を中心に勉強した。</p>	夏休み後	<p>推薦入試の過去問の総合問題を時間を計って3年分解きました。安定して八割以上が取れたため、今までのセンター対策を続けました。(世界史は停滞しました)面接は、自分の回答から話が膨らむため、会話を想定して、自分で面接官役も演じ、一人二役で声に出して話し続けていました。十月から、週末は必ず小論文を一題は解いた。十一月中旬に推薦入試を受けてから、疎かにしていた世界史に時間をかけました。十一月末に合格してからも学校内では合格前と同じように振る舞っていました。</p>
10月	<p>推薦対策本格開始 推薦の過去問の小論文を解き、添削してもらいました。総合問題の過去問を解きました。面接練習をしました。</p>		
11月	<p>推薦入試本番 高二の時に準備していた志望理由書の最終確認を複数の先生にお願いしました。センター対策は理科基礎が中心でした。</p>		
12月			
1月		冬休み	
2月		自由登校	
3月			

〔 木を見て森も見る 〕

40期生 平野唯香

【進学した大学・学部・学科】

筑波大学 人文・文化学群 人文学類

【他に合格した大学・学部・学科】

上智大学文学部英文学科
立教大学文学部史学科
中央大学文学部

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

哲学、歴史学、言語学を学ぼうと考えています。留学は必ずしたいです。
職はまだ決めていません。理由は、人生経験が浅い高校生のうちに選択肢を減らしたくないからです。大学で視野を広げてから決めます。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

受験を意識し始めたのは中三の頃だったと思います。きっかけは、大学や職業など将来のことについて考える課題が学年でだされるようになったことです。その頃は大学で学びたいことはおろか将来の夢も特になかったので、役に立ちそうな経済や国際系を志望していました。最終的に第一志望を筑波の人文に決めたのは高三の夏休み明けで、「大学は就職予備校ではない」という言葉を目にしたことがきっかけでした。これを機に将来のことに必要以上にとらわれずに自分の興味関心があることを学ぼうと思い、人文系に進もうと決定しました。

【生活の記録】

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 平日 部活なし			起床	朝食	電車	自習	授業						自習			電車	夕食	自由	就寝			

部活は音楽部に所属していましたが、高二で引退するので高三の一年間は勉強に専念していました。通学手段が電車だったので、所謂暗記科目と言われているものは電車で勉強していました。人が少ない時は英語や古文などの音読をしていました。

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 休日			起床				自習			昼食	自習					夕食	自由	就寝				

休日は図書館に行って勉強していました。基本的に一週間ごとに計画を立てていたもので、平日時間をかけられなかった教科や成績が伸びていない教科を中心に勉強していました。休日とはとにかく早く寝ることを心がけていました。

【実力考査の対策・復習】

前年度の過去問が学校で配布されるのでそれを解くこともありましたが、基本は学校の授業の復習をしていました。実力考査の復習は大事だと思っていたので解説を熟読していました。ただ、高三の夏以降、熟読するだけでは全く意味がないことに気づき、曖昧なところは教科書やノートに戻って前後の内容も復習して初めて記憶に定着しました。もっと早く気付くべきでした。

【センター試験対策】（センター受験科目：国語、英語、世界史、地理、数学ⅠAⅡB、理科基礎）

授業でほとんどの科目のセンター過去問を解いていたので、その復習をしていました。同じ問題で満点が取れるまで繰り返しました。冬休みに入ってから一日一年分時間をはかりながら解きました。現代文が直前まで低迷していましたが、先生に相談したら問題点を丁寧に指摘してくださり、本番までにコツがつかめて九割取れたので、点数が伸びない科目はすぐ相談することをおすすめします。

【二次試験（記述）対策】（二次試験科目：英語、国語、英語）

はじめに言っておくと、私は二次対策の仕方を完全に間違えました。センターが終わってすぐ私大対策に目が向いてしまったからです。そのため試験一週間前はかなり焦ることになりました。第一志望が決まったら傾向を自己分析して対策を講じることが鉄則です。私の場合、傾向の分析を怠ってしまい、直前になって十五年分の過去問の問いを紙に書きだし対策を立てました。先生には文章の構成を徹底的に見てもらいました。なんでも一人でやろうとするのはよくないです。

【苦手科目をどう克服したか】（苦手科目：数学、英語）

数学はセンター本番で60点をたたき出してしまったので最終的に克服とまではいかなかったですが、勉強するとき心掛けていたのは、何を間違えたのかなぜ間違えたのかを正しく理解し、正しい解法を身に着けることです。正しい解法を身に着けるためあやふやなところは青チャートに戻って確認するようにしていました。英語は長文読解が苦手でしたが、スラッシュやカッコを用いて読んでいくうちに読み慣れスラスラ読めるようになりました。あとは音を聞いて真似ると良いです。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

目標をあまり高く設定しなかったので勉強をしていて特につらかったことはありませんが、強いて言えば夏休みに入るまで成績がほとんど伸びず焦りがありました。夏休みに入ってから自分のすべきことや反省点を手帳に書き出し可視化するようになると焦りが軽減しました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

「物事の一部だけに気を取られて全体を見失うこと」を意味する「木を見て森を見ず」という言葉があります。偏差値や点数ばかりに気を取られていた私をよく表していると思います。数字が大きければ嬉しいですが、受験校の問題を完答できなければ何の意味もないと思います。勉強の目的を大学に合格するためとすると効率よく勉強でき、受験の固定観念にとらわれなくなると思います。私は第一志望の大学をなかなか確定することができなく、高三になってからも三回変えました。大きな目標を確定するには多少の勇気が必要でしたが、筑波の人文に合格するという目標が見えてからは無駄なことはしなかったなという印象です。周りに流されず頑張ってください。

【合格への軌跡】

4月	<p>体育祭中心 本部に入っていたこともあり休日も体育祭を優先。授業と復習命。</p>	夏休み前	<p>授業の復習や学校で配布された問題集を解いていました。この頃はまだ筑波大合格という明確な目標はなく、直近の摸試で偏差値65以上取るとかA判定取るといった目標しかありませんでした。 夏休みまでに基礎を固めておくべきだといわれていたので知識を増やして苦手科目を無くそうとしていました。</p>
5月	<p>切り替え 英単語(鉄壁)を始めた。 勉強の記録が残っていないがおそらく前期中間の勉強をしていた。</p>		
6月	<p>進路に迷走 私大に惹かれる。 受験科目から地理と数ⅡBをはずす。</p>		
7月	<p>本格的に受験勉強スタート 夏休みが始まる。 自分の知識が薄弱なことに気づく。</p>	夏休み	<p>一か月の目標を決めそれを達成するためのことを一週間ごとに書き出し、毎日の勉強計画を逆算して立てるという習慣を身に着けました。曖昧な知識を無くすため参考書や単語帳に張っていた付箋をすべてはがし、頭に入れるよう努力しました。</p>
8月	<p>赤本を解く 自分の実力不足を痛感する。</p>		
9月	<p>撃沈 休み明けのマーク摸試で時間をかけたはずの英語で七割しか取れず。記述摸試でも数学で問題文を読み間違える。注意力を上げる。</p>	夏休み後	<p>授業でセンター対策が本格化し始めたので、形式に慣れると同時に復習を欠かさずしていました。 休み明けの試験で良い点数がとれず流石に落ち込みましたが、夏休みに勉強したことが無駄にならないように日々手帳を見返して知識を繋ぐことを意識していました。 夏休み前はインプット中心であったのに対し、夏休み後はアウトプット中心でした。 進路が明確になったことで勉強しやすくなりました。</p>
10月	<p>進路を確定 筑波の人文を第一志望に。距離を置いていた地理と数ⅡBを中心に勉強。私大の英語を毎日読み、語彙力を上げ速読の練習。</p>		
11月	<p>早慶オープン、記述摸試の申し込みを忘れる 相次いで摸試の機会を逃すがおかげで筑波の過去問に専念できた。英語の長文がスラスラ読めるようになる。</p>		
12月	<p>センター対策 センター中心。英語は私大のみ解く。 数学など解く順番を決め、型通りに解く練習を繰り返す。</p>		
1月	<p>切り替え 数学で大失敗。が、全体的にはまあまあ。 センターの燃え尽き症候群にならないように。</p>	冬休み	<p>八割後半を取るために苦手な数学に時間をとりました。年末年始は面白い番組が多いので早寝早起きして長時間観ないようにしていました。</p>
2月	<p>本当本気 連日の私大入試。一週間のラストスパート。 始発と遅電を利用し一年で一番のやる気と集中力で乗り切る。</p>		
3月	<p>合格 後期も筑波の人文に出願したため過去問を三年分解く。3月7日合格発表。自分の番号を発見したときは本当に嬉しかった。</p>	自由登校	<p>私大の過去問を解くためにもほぼ毎日登校していました。直前講座は世界史の早慶対策と論述の添削、英作文の添削、国語の記述添削をお願いしていました。 二月は無理をして大きく体調を崩してしまいました。体調管理は本当に大事です。</p>

〔 千里の道も一歩から 〕

40期生 方波見 千里

【進学した大学・学部・学科】

筑波大学 医学群 医学類

【他に合格した大学・学部・学科】

東京理科大学 薬学部 薬学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

医師としての知識や技術を身に着けるのはもちろん、それらを生かして地域が抱える医療問題の解決にも取り組んでいきたいと考えています。将来は総合診療医として鹿行地域の医療に貢献したいです。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

医師になることは幼い頃からの夢だったので、中学校に入学した時から医学部を受験することは決めていました。医療ゼミでの活動を通して、地域医療に携わりたいと考えるようになり、高校一年生の時に地域に根差した教育を受けられる筑波大学を第一志望にしました。

【生活の記録】

	時	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
高3 平日	起床	数 学			登 校		授 業							自 習	帰 宅		就 寝						

眠気と闘いながら勉強するのは効率が悪いと思ったので「眠くなったら寝る」と決めました。色々試した結果、9時に寝て4時に起きる生活が自分に一番合っていました。通学中や朝のSHR前、授業間の10分休みなど全ての隙間時間を勉強に捧げました。受験が近づくと、昼休みは昼食を一人で済ませ、急いで自習室に向かうようになりました。

	時	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
高3 休日	起床	数 学					自 習							帰 宅		暗 記	就 寝						

休日も平日と同じリズムで生活するように心がけました。自習室が開く9時までコメダ珈琲で1時間半ほど勉強し、それから学校に移動していました。自習室で机に向かって黙々と勉強する同級生の姿を見ると、「自分も頑張ろう」という気持ちになり、勉強が捗りました。

【実力考査の対策・復習】

模試の2,3日前から世界史のテキストを見直すようにしました。それ以外は特に対策はしませんでした。模試の度に目標を決めてそれをクリアできるように日々の受験勉強の計画を立てました。解答が配られたらすぐに自己採点をし、間違えた問題を解き直してノートにまとめ、一度間違えた問題を二度と間違えないようにしました。

【センター試験対策】(センター受験科目：国、数、英、世、生、化)

佐藤亮子さん(4人の子供を全員東大理Ⅲにいられた凄い人)の『志望校に一発合格する過去問攻略法』という本に基づいて、母が赤本を1年ごとにバラしてくれました。持ち運びが楽なうえに、過去問の進捗状況が目で見えてわかるのでかなりオススメです。この本に書いてある通りに過去問を解き進め、苦手な国語と不安な数学は20年分を2周、どうしても高得点を取りたかった世界史は25年分を3周しました。私がここに書くよりも本を読んだほうが分かりやすいと思うので、過去問の使い方が分からないという人は是非読んで実践してみてください。

【二次試験(記述)対策】(二次試験科目：英語、数学、生物、化学)

想像以上に基礎固めに時間がかかり、前期試験の過去問を解き始めたのはセンター試験が終わってからでした。センター試験で過去問をやることの大切さを知った私は、二次試験のためにもひたすら過去問を解きました。(15年分を2周) またそれと並行して数学と英作文の添削をしてもらいました。添削をもらうことで、自分の苦手な部分や直した方が良い癖などを見つけることができました。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目：国語)

古典は、単語や文法など覚えるべきことを頭に叩き込みました。現代文は解答を導くまでのプロセスを何度も確認し、疑問を抱いた部分や納得のいかない部分はすぐに先生に質問をするようにしました。センター試験の過去問を解いていくうちに解き方やペース配分が掴めるようになり、徐々に点数が伸びていきました。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

生物と世界史という暗記量が一番多くなる組み合わせを選択したため、完成までかなりの時間がかかりました。他の筑波医志望のみんなは物理選択だったので、生物の成績が伸び悩んだ時期は自分だけ遅れをとっていると感じて辛かったです。この焦りと不安を払拭するには、ひたすら勉強するしかないと思い、夏休み以降はこれらを重点的に学習しました。幸い、生物も世界史も大好きで勉強していて楽しかったので最後まで頑張れました。完成までは大変ですが、完成させたら最強です。センター試験本番ではどちらも9割を超え、得点源となりました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

私が合格できたのは、早い時期に第一志望を決めたこと、勉強が苦ではなかったこと、周囲からのアドバイスを素直に聞き入れたこと、自分のペースで勉強したこと、毎日自習室に通ったこと、過去問をいっぱい解いたこと、など色々考えられますが、一番は沢山の人の支えがあったからです。誰よりもそばで応援してくれた家族、いつも背中を押してくださった先生方、一緒に闘ってくれた同級生、元気をくれた後輩たち。一人では乗り越えられなかったと思います。本当に感謝しきれません。

後輩の皆さんへ。受験は長期戦です。最後まで戦い抜くためには、健康管理がなによりも大切です。睡眠をたっぷりとり、一日三食しっかり食べて、たまには息抜きをして、心も身体も健康な状態で勉強できるような生活を心がけてください。また焦らずに、目の前にあることを一つずつ着実にこなしていけば、自然と合格に近づいていきます。受験は思ったより辛いものではありません。自分を信じて頑張ってください。

【合格への軌跡】

4月	体育祭一色! 副団長とダンス班の仕事が忙しく、朝の数学以外ほとんど勉強できなかった。その代わりに授業はしっかり聞いた。	夏休み前	医学類に通う先輩から平日は（授業を除いて）8時間、休日は13時間勉強していたと聞き、それを目標に学習時間を計りながら勉強した。タイマーを常に携帯しておくことで、少しでも隙間時間があると勉強しようという気持ちになれた。	
5月	受験勉強の本格化 最初は焦りと不安でなかなか勉強に身が入らなかったが、毎日が新しい発見の連続で次第に勉強が楽しくなっていった。		【 オススメ参考書・厳選・ 】 数学…一対一対応の数学 / 英語…基礎 英文解釈の技術 100 / 化学…化学重要問題集 / 生物…生物基礎をはじめからていねいに ※基本的に学校で配布された問題集や教科書を使用。	
6月	基礎固め その日の気分で勉強するのではなく、曜日ごとにやる科目を決めた。こうすることで避けてしまいがちな苦手科目にも向き合えた。			
7月	最初で最後のA判定 第一志望で初めてA判定が出た。気が緩んだせいで、次の模試はC判定まで下がった。A判定は「あぶない」を実感した。	夏休み	最初は全科目をバランスよくこなそうとしたが、細かく計画をたてるのが苦手な私には無理だと気づき、その時やる気になっていた化学だけに集中することにした。今振り返ると、この判断は正しかったと思う。	
8月	化学に恋する夏休み T先生の授業のおかげで化学の面白さに気づき、やる気が爆発。夏期講習は化学だけを取り、重要問題集を3周した。			
9月	生物組の追い上げ 物理に比べて不利だと言われる生物。決してそんなことはないと言われ生物選択者で励ましあって皆で頑張っていた。			
10月	病み期到来 思うように成績が伸びない。なんで医者になりたいのか分からなくなり、泣きながら先生のところに駆け込む日が続いた。	夏休み後	夏休みが終わってからは、生物の基礎固めを中心に、文系科目の仕上げに取り掛かった。秋以降、医学部志望のほとんどが推薦入試で合格し、「自分だけ落ちたら…」と考えることが多くなった。この時期が一番病んでいたと思う。ストレス軽減のため、息抜きと睡眠の時間を増やし、美味しいものをいっぱい食べるようにした。	
11月	推薦不合格 受かるとは全く思っていなかったが、やっぱり少し落ち込んだ。前期は絶対合格してやるとやる気スイッチがONになった。			
12月	ひたすら過去問 センター試験で点数が取れないと何も始まらないと思い、二次試験の対策はせず、センター試験の過去問だけを解いた。			
1月	センター試験 802/900 当日に財布を紛失して朝から号泣。試験どころではなくなったが、主任の先生が探し出してくださり、温かい言葉をかけてくださったおかげで、なんとか気持ちを立て直すことができた。この恩は一生忘れません。	冬休み	冬期講習は取らなかったが学校が開いている日は自習室に行った。年末年始も早寝早起きを徹底し、塾の自習室に籠って朝から晩まで勉強した。	
2月	第一志望は譲れない センター利用で理科大に出願したが、筑波大対策に時間をかけたかったので他の私大は受けなかった。		自由登校	自由登校になってからも毎日学校に通った。前期試験が終わると一気に人数が減ったが、それでも一緒に闘ってくれる仲間との存在と先生方からの励ましの言葉に助けられた。前期試験が終わってから発表までは緊張で眠れない日が続いた。少しでも運気を上げようと、ゲッターズ飯田の占いを信じ、毎日変わるラッキーフードを食べ続けた。御守りも気づけばリュックに6個ついていた。
3月	合格発表まで 後期は生物学類に出願したが、前期で落ちたら浪人するつもりだったので、次年度を見越して推薦の過去問を解いていた。			

〔 合格体験記 〕

40期生 保立 紘希

【進学した大学・学部・学科】

信州大学 工学部 建築学科

【他に合格した大学・学部・学科】

芝浦工業大学 建築学部 都市・建築デザイン学科
関西大学 環境都市工学部 建築学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

2011年に経験した東日本大震災で崩壊していった建物を見て耐震性という観点から建築に興味を持ち始め、のち国立図書館などのデザイン性のある構造に感銘を受け益々建築学に惹かれていきました。将来は一級建築士の資格を取りデザイン性と災害への強さを持つ建築物開発に携わりたいと考えています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

様々な大学のオープンキャンパスを見て、学費が安く、キャンパスも広く、評判の良い国立大学に行きたいと考えており、高校一年生で第一志望を九州大学にしました。高校三年生の夏の九大オープン模試で実力の不十分さを感じ、環境の良さという面で信州大学を第一志望としました。

【生活の記録】

（高3・平日・部活あり）

6時：起床、6時30分～45分：朝食、7時30分～8時30分：勉強、
8時30分～16時：授業 16時～18時：部活、19時30分～20時：夕食、
20時～20時30分：入浴、20時30分～24時：勉強、24時：就寝

通学時間を単語帳や無機化学などの暗記に利用して、勉強時間が長くとれる場合はゆっくり時間をかけて数学や物理の問題を解いていきました

（高3・休日）

6時30分：起床、7時：朝食、8時～12時：勉強、
12時～12時30分：昼食、12時30分～13時：昼寝、
13時～18時：勉強、19時～19時30分：夕食、19時30分～20時：入浴、
20時30分～24時：勉強、24時：就寝

休日は時間が長くとれるので重要問題集や大学の問題を、理解を深められるよう丁寧に解いていきました。

【実力考査の対策・復習】

基本的に学校で購入したテキストで問題演習を積み、演習の中で理解が足りない部分は授業内でメモしたノートを見て定義やそれを導く流れまでを確認していました。実力考査で分からなかった部分はもう一度問題を解説を見ずに解き直し、時間をかけてもわからない場合、友人に聞いたり、解説の解き方をメモしたりしていました。

【センター試験対策】(センター試験科目：国語、数学ⅠAⅡB、英語、物理、化学、日本史)

国数英は夏期講習や冬期講習、駿台の実践演習や授業での過去問演習を何度も行い、得点が安定するまで繰り返し復習と共に行っていました。日本史はひたすら教科書を十数回読んで間に過去問という形で対策しました。物理、化学は二次対策でほぼまかなえたので過去問で分からなかった部分を復習していました。

【二次試験(記述)対策】(二次試験科目：数学ⅠAⅡBⅢ、物理)

基本的に大学の良問がそろった問題集を2、3周して、11月くらいから自習室の赤本や青本で国公立大学の過去問を解いていきました。先生が出してくれる難関大の過去問にも挑戦していました。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目：数学、国語)

数学は国立の問題を沢山解いて応用の形を身につけていきました。国語は自分の考え方のずれを参考書で修正していき何度もセンター形式の問題を解いては復習をした。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

高1から高3までの基礎を固めるのにすごく時間がかかる上に授業でまた新たな知識が入ってくるため本当に苦しかったです。それを乗り越えると初見の問題でもある程度解ける時期が来たのですが、今度は始め解けたのに2回目解けなくなったりすることが何回もあったので苦勞しました。それでも、できない自分と向き合うことの大切さを先生から学び、共に努力する友人もいてくれたことで自分も大学合格という目標に向かって奮起しようと目の前の問題に取り組むことができました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

自分が合格できた理由の一つに周囲の環境があります。周りには高い目標を持つ人が沢山いましたし、良い意味で常に緊張感がありました。そのおかげで自分のモチベーションも維持出来た上、挫折しそうでも暖かく励ましてくれ、自分のやるべきことを見つける手助けもしてもらったと思います。自分の結果が出始めるのは人それぞれですが、僕は11月後半あたりからでした。また一番成績が伸びたのはセンター試験が終わった後でした。そのため九州大学を諦めて後悔しています。必ず自分が成績の伸びを感じる日が来ます。それを信じて第一志望を諦めずに勉強に励んでください。

【合格への軌跡】

4月	部活の試合が多く、自身も熱を入れていたため、隙間時間や夜を中心にコツコツと勉強していった。	夏休み前	主に理系科目の基礎を物理、化学はリードα、数学は青チャートを利用して徹底的に固めました。英語も単語帳とヴィンテージを繰り返し行いました。
5月			
6月			
7月	数学と物理の教科書内容が終了し本格的な基礎完成と共に応用問題に手を出し始めた。	夏休み	毎朝九州大の英語長文を1題解き、夏休み中に物理と化学と数学の重要問題集を1周する目標を立て地道に解いていきました。
8月	第一回九大オープン模試を受け、自信のあった物理で惨敗し、ある程度かけたと思った数学でさえ部分点をもぎ取れず厳しさを感じた		
9月	成績に伸び悩み、同級生との差を感じ始めてきて不安になった。それでも目の前の問題に集中して解いていった。	夏休み後	夏休み期間解ききれなかった重要問題集の残りを解き、1回目解けなかった所や不安な所を2周、3周としました。また赤本などを用いて国立の問題を解いていきました。
10月	駿台・ベネッセのマークと記述のドッキング判定が来た。信州大学はA判定であったが得点と判定がかみ合っていないため焦りを感じた。		
11月			
12月	センター試験をメインに切り替え、得点が乏しかった数学、国語、社会を過去問、実践問題集を十数回分ほど解いた。	冬休み	冬休みはひたすら時間を計ってセンター演習をしていました。
1月	センター試験の自己採点が終わり、結果は数学、リスニングがひどかった。しかし総合で信州大学のボーダーより上回っていたため気持ちを切り替え二次対策の勉強に励んだ。		
2月	第二週までは私大対策、残りは国立対策に時間を当てた。私大第一志望には手が届かなかったが第二、第三には合格できたため気持ちが楽になった。	自由登校	主に学校で信州大学や私大の過去問を実戦形式でひたすら行いました。有名私大に合格する人が沢山いて焦りを感じたが同じクラスで勉強する人に励まされ最後までやり切った。
3月	物理は例年に比べ簡単だったため、自信があったが、数学は難化していたため周りの人の出来に祈るしかなかった。しかしセンター試験でのアドバンテージもあったため合格できた。		

〔 合格体験記 〕

40期生 濱田 風沙

【進学した大学・学部・学科】

千葉大学教育学部学校教員養成課程乳幼児教育コース

【他に合格した大学・学部・学科】

青山学院大学教育人間科学部教育学科
 日本女子大学家政学部児童学科
 白百合女子大学人間総合学部初等教育学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

私は将来、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の両方を取得し、認定こども園で働きたいと考えています。大学では、乳児期や幼児期の子ども達の発達等について学び、子ども達一人一人のことを理解して子ども達から信頼されるような先生になりたいです。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

小学生の頃から、年下の子お世話をしたり一緒に遊んだりするのが好きで、幼稚園の先生になりたいと思っていました。高校に入学したくらいから何となく国公立大学を受験することを考えていて、高校1年生の夏休みに千葉大学のオープンキャンパスに行き、千葉大学を第一志望にしました。決め手となったのは、国公立大学ではめずらしい乳幼児教育専門のコースがあることや、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の両方を取得出来ることでした。

【生活の記録】

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3平日				起床・朝食	登校	←				授業				→		勉強		入浴	夕食	自由時間	就寝	

何度か朝方に切りかえようとしたのですが、染みついた夜型を変えることはできませんでした。放課後は学校の自習室で18時まで勉強し、その後塾の自習室に移動して20時30分まで勉強しました。授業の大まかな復習はその日のうちに済ませていました。また、家では集中できないので、その日の勉強は帰宅前までに完結させるようにしていました。

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3休日				起床・朝食		←					勉強					入浴	夕食	自由時間		就寝		

休日は起床時間が遅く、勉強の開始時間が遅くなってしまったことが反省点です。休日は市民センターの自習室で勉強していました。昼食をはさむと集中力が切れてしまうので、市民センターにいる間は休憩を取らずに勉強しました。また、土曜日と日曜日は家族全員で夕食を取り、家族団らんの時間を大切にすることでリフレッシュしていました。

【実力考査の対策・復習】

模試は、自分の勉強がどれくらい身についているかや勉強の方法が間違っていないかをチェックするのに利用しました。そのため、模試直前もそのまま受験勉強をいつも通り続けました。模試を解いている最中に、自信のない問題や分からない問題には○を、確信のない問題には△を問題の横につけて、復習の際には間違えていなくても見直すようにしました。また、間違えた問題や○または△をつけた問題は、模試を受けてからあまり時間が経たないうちに復習するようにしていました。

【センター試験対策】(センター受験科目：国語、数学ⅠA・ⅡB、英語、世界史B、倫理政経、生物基礎、地学基礎)

夏休み前までは、「合格への軌跡」に書いたような方法で各教科の基礎固めをしました。夏休み後は、マーク模試や授業で行ったセンター演習を間違えた問題を中心に直し、苦手なところを復習したり新たな知識を増やしたりしました。直し直しをして新たに知った知識や文法や単語などは、そのつどテキストや教科書や単語帳に書き加えて復習しました。また、実際のセンターの過去問を時間を計って解き、緊張感のある状態で時間を意識して問題を解く練習をしました。問題を解く順番等も、演習を重ねていくうちに自分に最適なものを見つけていきました。

【二次試験(記述)対策】(二次試験科目：国語、数学ⅠA・ⅡB、英語、専門適性検査(グループ討論))

国語は、授業で行った記述対策(現代文は様々な国公立大学の入試問題を解き、古典は様々な古典の入試問題が掲載された記述問題集の演習をしました。)と過去問演習が中心でした。過去問の答えは先生方に添削して頂きました。数学は、様々な大学の入試問題が掲載された記述対策の問題集と過去問の演習をしました。また、校内の千葉大学受験者向けに開かれた数学の対策会にも参加しました。英語は、SKYWARD等の長文問題集や過去問の演習をしました。過去問を解いた際に知らなかった単語や表現は書き出し、入試直前にも見直しました。グループ討論の対策としては、先生から頂いた過去の先輩方のレポートを参考にしました。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目：数学)

数学だけ塾に通わせてもらっていたので、塾の教材を復習したり、二次試験の過去問の解法を熟読したりしました。また、二次試験では1点でも多く取れるように、解ける問題から解いたり詰まったときはすでに解いた問題にミスがないか見直したりすることを心がけました。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

秋頃からずっと、「本当に受かるのか」という大きな不安が付きまといました。「自分の勉強方法は間違っているのではないか」とか「自分は人より勉強していないのではないか」という心配ばかりしていました。友達と不安や悩みを共有することで、案外皆同じようなことを思っていたのだと分かり、安心しました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

私は、本格的な受験勉強を始めたのは高3の5月でしたが、高校に入学してからそれまでの2年間も、授業をまじめに受けて宿題はきちんと提出するようにしていました。そのため、高3になった時点である程度の基礎的な土台が出来ていたのも、少し余裕をもって受験勉強に取り掛かることが出来たのだと思います。ただ、私の受験勉強生活は反省すべき点も多く、主に2点挙げると、①生活習慣が乱れがちだったこと、②二次試験の対策を始めるのが遅かったことです。①は特に自由登校の期間に起こりました。睡眠不足だと万全のコンディションで入試に臨めないのも、学校生活と生活リズムを大きく変えないほうが良いと思います。②は、私は二次試験の本格的な対策を始めたのがセンター試験後だったので、不安な部分が残ったまま二次試験本番を迎えました。そういうことにならないように、春休みや夏休み等の時間が取れる時に少しずつ記述対策を進めておくのが良いと思います。

【合格への軌跡】

4月	<p>体育祭に全力を注ぐ 部活動を引退し、放課後はダンス練や団のマスコット制作に励む。まだ受験生という自覚があまりなく、高2までと変わらない勉強量だった。</p>	夏休み前	<p>夏休み明けからは、演習に時間を割きたかったので、夏休み前は主に各教科の基礎固めを行いました。世界史、倫理・政経、生物基礎、地学基礎は、教科書やテキスト全文を音読して、資料集等を併用して内容を理解しながら頭に入れていきました。英語は、Vintageで基本的な文法や表現をおさえ、授業で演習した問題を復習して語彙を増やしました。国語は、学校で配布された教材を使って、古文単語や漢文の文法、漢字等の復習をしました。数学は、青チャートを始めましたが、ページの多さに圧倒され、挫折してしまいました。この頃は、1週間ごとや1日ごとの、細かな計画を立てていなかったため、なんとなく勉強しているような感じでした。</p>
5月	<p>受験勉強を始める 本格的に受験勉強を始めたものの、まだ自分の勉強法が定まっておらず、全教科片っ端から勉強しようとしたため、なかなか効率が上がらなかった。</p>		
6月	<p>勉強に偏りが出てくる 青チャートに挫折したことで、苦手な数学を遠ざけ、自分の好きな社会や英語にばかり時間を割くようになる。</p>		
7月	<p>第一志望へのモチベーションを上げる 千葉大学のオープンキャンパスに参加した。参加するのは2回目だったが、説明を聴いて、この大学に行きたいという気持ちが強くなった。青チャートを復活させるも、再び挫折。</p>	夏休み	<p>長時間勉強する日は、飽きないように1教科2時間ぐらいつつにして、複数の教科をバランスよく勉強するようにしました。内容は5月からの基礎固めの続きが中心でしたが、もう少し演習量を増やせばよかったかなと思います。「夏休みで基礎を完璧にする」と意気込んでいましたが、思っていたより進まず、落ち込みました。</p>
8月	<p>センター模試を受ける センター模試を受け、数IA・II B共に散々な点数を取る。改めて、自分が数学が苦手であることを痛感し、焦り始める。</p>		
9月	<p>AO入試を受ける 「チャンス多いほうがいい」という安直な理由で、千葉大学のAO入試を受ける。対策をあまりせず何となくで受けてしまったため、手応えは全く無かった。</p>	夏休み後	<p>夏休み後は、模試を受ける回数も増えてきたので、マーク模試の復習に力を入れました。また、授業で行ったセンター演習の復習も行いました。11月頃からは曜日ごとに勉強する教科を分けることで、どの教科もまんべんなく勉強するようにしました。ただ、センター試験対策が中心となり、記述対策を十分に行うことが出来ませんでした。</p>
10月	<p>センター試験に向けて勉強 AO入試は受かった気がしなかったので、模試や授業で行ったセンター演習等の復習を中心に、センター試験に向けた勉強を始める。</p>		
11月	<p>辛い時期に突入 AO入試で不合格になり、予想はしていたもののショックでしばらく引きずる。また、勉強のモチベーションが上がらず、受験への漠然とした不安にも悩まされ、精神的につらい時期を過ごす。</p>		
12月	<p>モチベーション回復 センター試験までの日数が少なくなったことで、吹っ切れて勉強に集中するようになる。また、校内模試での志望校判定も良く、精神状態も安定する。</p>		
1月	<p>センター試験 センター試験本番は、数IAで大失敗したものの他の教科でカバーし、合計点は過去最高点だった。それもあってか、センター試験後の数日は、燃え尽きて勉強する気にならなかった。</p>	冬休み	<p>冬休みはひたすらセンター試験の演習をしました。時間を計って行うことで、ペース配分や感覚をつかみ、また、緊張した状態でも問題が解けるようになりました。</p>
2月	<p>私大、国公立前期 出願した私大は、一般・センター利用共に全て合格していたので、国公立の前期試験もこのままの勢いで行こうと思っていたが、全力を發揮できず、不安が残った。</p>		
3月	<p>合格発表 後期の面接の対策をしながら合格発表を待っていた。そして、無事に千葉大学に合格。学校に報告に行く。たくさんの先生が喜んで下さった。</p>	自由登校	<p>センター試験後は、私大対策と国公立の二次対策を並行して行いました。ほとんど毎日学校に来て自習室で勉強し、友達と励ましあってモチベーションを維持していました。私大対策は、主に過去問を解いて復習するくらいでした。二次対策も同様でしたが、答案を先生方に添削して頂きました。また、第一志望の過去問は、最近のものは2回ずつ解きました。前期試験後は、後期試験対策として、先生に面接の練習をしていただきました。</p>

〔A0 と推薦の不合格、乗り越えて前期。〕

40期生 西山 由紀

【進学した大学・学部・学科】

お茶の水女子大学 文教育学部 言語文化学科

【他に合格した大学・学部・学科】

立教大学 文学部 文学科 日本文学専修
 中央大学 文学部 人文社会学科 国文学専攻
 立命館大学 文学部 人文学科 日本文学研究学域
 日本女子大学 文学部 日本文学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

私は日本文学を専攻して、平安時代の作品や和歌について学びたいと思っています。1000年前の作品に現れる感情が現在とどう異なり、どこが同じなのかに興味を持ったからです。将来は大学と大学院で学んだことを生かして中学高校の国語教師になり、日本文学を読み解く面白さを生徒と共有したいと考えています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

きっかけは高1の5月、母に誘われて遊びに行ったことです。その後オープンキャンパスなどに参加し、各時代の専門がそろっている教授陣や、幅広い時代の文学を学べる点に魅力を感じたので本格的に第一志望にしました。それから受験本番まで、第一志望校はお茶大から全く変化していません。

【生活の記録】

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 平日				起床・朝食	登校・自習	授業	授業	授業	授業	昼食	授業	授業	授業	自習	自習	自習	塾	塾	塾	夕食・風呂	就寝	

朝と昼休みは短時間でもできるVintageや単語帳を進めました。放課後は学校が閉まるまで自習室で、その後は塾で21時半まで勉強していました。秋までは学校で配られた問題集を教科問わず解く時間にしましたが、冬以降は過去問を解く時間にしました。

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 休日				起床	朝食	登校	自習	自習	自習	昼食	自習	自習	自習	自習	帰宅	夕食	風呂	自習	自習	自習	就寝	

6月以降、家よりも学校の方が集中できると分かり、日曜日も学校で勉強するようにしました。まとまった時間がとれるため、模試の復習を1日掛かりでやったり、誰もいない教室で延々と暗記科目や英語の音読をしたりと、平日では出来ないことをしていました。

【実力考査の対策・復習】

模試はその時までの自分の勉強法が正しいかどうかを確認する指標だと思っていたので、特に対策はせずに挑みました。その代わり復習は丁寧にやりました。教科別にノートを作り、間違えた問題をノートに貼り(または写し)、間違えた理由と正しい解答を色ペンで書きました。決して模範解答をただ書き写すだけ、ということはないで下さい。間違えた理由を明確にし、正答の導き方を理解することが重要だからです。

【センター試験対策】(センター受験科目:国語、数ⅠA、数ⅡB、物理基礎、化学基礎、世界史、倫理・政治経済、英語)

各科目、秋以降は授業で演習と解説をしてくれたので、自分ではその復習しかやっていませんでした。マーク模試で大体時間配分や解く順番は決めていたため、勉強時間を全てセンター対策に振ったのは1月に入ってからでした。理科基礎は5年分、他の科目は10年分解きましたが、数学や英語などの教科は戻りすぎると形式が変わるので、予想問題集を使うのもいいかもしれません。

【二次試験(記述)対策】(二次試験科目:国語、英語)

秋までは学校から配られた二次対策用問題集を解き、復習していました。秋以降はお茶大の過去問を10年分解きました。過去問は自分のみで採点して復習するよりも、先生方をお願いして添削して頂くべきだと思います。特にお茶大の現代文には、本文の趣旨をまとめた後に、それに対する自らの意見を、経験を基に300字以内で書くという問いがあるので、先生方に見てもらった方が安心して試験に臨めます。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目:英語、世界史)

この2科目は5月の模試(河合や駿台)で全国偏差値50を切るほど苦手でした。英語はVintageを24周することで文法・語法を基礎から固めました。前に間違えた問題だけを今回やり、今回間違えた問題だけを次やるというやり方でしたが、5週に1度は全ての問題をやり直し、知識の抜けを防ぎました。4月頃には半分も取れていなかったセンター大問2(文法問題)が7~8周目には75%、15~16周目には85%得点できるようになり、センター本番では1問ミスに留めることができました。世界史でもVintageと同じやり方で問題集を6周解きました。考えるまでもなく、反射で答えが出てくるようになるまで1冊の問題集を繰り返すことが、苦手科目の克服に必要なことだと思います。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

部活が出来なかったことが一番辛かったです。楽観的な性格なので勉強面ではさほど辛く思いませんでした。体が動かさないことでストレスが溜まっていました。私が幸せだったのは、愚痴を言い合える友人達がいたことです。愚痴をこぼし合ったり、他愛もないことで笑い合ったりすることでストレスはだいぶ軽減されました。冬休みなど長期間友人に会えない時はお風呂で大声出して歌っていました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

7時間睡眠を1年間崩さず良い体調を維持できたことと、AO入試や推薦入試に落ちてもめげない精神力が合格の要因だと思います。一足先に入試を終えた人達に気を取られず、3月まで入試が続く仲間達と励まし合いながら、楽しんで受験生活を送ってください。応援しています。

【合格への軌跡】

4月	体育祭で忙しいけれど 体育祭で忙しいことを言い訳にしないよう、短時間でも集中して勉強しました。Vintage も始めました。	夏休み前	基礎を固めようと思い、(特に社会科は)教科書を読んで覚えようとしたのですが、眠くなるだけで私には意味がありませんでした。人によると思いますが、私は問題集を繰り返し何周も解く方が(手を動かして眠くならないのもあり)性に合っていました。理系科目は新たに習うことはなく、授業で問題集を使っていたため、自習時間は解いた問題の復習をしていました。
5月	放課後自習室生活に慣れる 放課後自習室で落ち着いて勉強することに慣れ始めました。授業と模試の復習に多くの時間を使っていました。		
6月	勉強効率 UP 飽きやすい私は短いサイクルで多くの教科を勉強する方が向いていると分かり、勉強の効率が上がりました。		
7月	A判定で不安になる 模試でA判定を取り、「A判定はあぶない」というO先生の言葉を思い出して不安になりましたが、油断しなければいいんだと思い直しました。	夏休み	学校が閉まっている間は、塾で勉強していました。各教科バランスよく勉強し、取り残される教科が無いように心がけました。
8月	AO 出願 出願書類準備のため少しバタバタしていましたが、何だかんだ楽しくあまりストレスは感じませんでした。勉強と書類準備がそれぞれ息抜きになっている状態でした。		
9月	パツとしない 夏休み明けの模試であまり成績が伸びておらず少しモヤモヤしましたが、センター英語大問2の成績は伸びていたため「間違っていないはず」と勉強方法を貫きました。	夏休み後	Vintage で結果が出てきたこともあり、まだ基礎固めが終わっていない理社科目も焦らず勉強を続けました。英・国は記述用の問題集に取り組んでいました。数学は授業でのセンター演習の復習を主にしていました。
10月	AO 不合格&推薦出願 「ダメで元々だから」とむやみに落ち込まないようにしました。推薦の出願期間が迫り、落ち込んでいる暇もありませんでした。		
11月	英語に手応えを感じ始める Vintage14 周目位で、センター演習で8割を超えるようになり、Vintage で得た文法力は長文にも生かせることが分かりました。		
12月	推薦不合格、後がない 「後は一般で受かるしかない」と逆に吹っ切れました。センタープレで散々だった世界史(68点)にかかる時間を2倍にしました。	冬休み	年明け前は私大の過去問も一通り解いていましたが、年明け後は2日で1年分センターの過去問を解き復習することを繰り返していました。
1月	センターで自己ベスト 結果は 767/900(85.2%)。センターリサーチで出願校がほぼA判定だったこともあり、浮かれていました。浮かれていると勉強に集中できないので早く切り替えましょう。		
2月	二次:私大=7:3 私大はセンター利用でほぼ合格すると思っていたため、2月前半の勉強時間の割合は上記の通りでした。センター対策期間で鈍った記述の勘を取り戻しました。	自由登校	この時期は過去問を解いては復習、を繰り返していました。人が少なく心細かったのですが、友人と話すことで気持ちを切り替えることが出来ました。
3月	お茶大に合格! 合格発表までは後期に出願していた奈良女子大の過去問を6年分解いていました。		

〔 妥協しない。 〕

40期生 高栖 香乃

【進学した大学・学部・学科】

お茶の水女子大学 文教育学部 人文科学科

【他に合格した大学・学部・学科】

都留文科大学 文学部 英文学科

立教大学 法学部 国際ビジネス法学科

立教大学 文学部 文学科 英米文学専修

学習院大学 文学部 英語英米文化学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

就きたい職業がなくずっと目標がぼんやりとしていましたが、推薦入試などの受験を通して海外に興味があることを再確認でき外資系企業などの社員となり多言語を使いこなせる仕事のできる人として働きたいと思うようになりました。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

就きたい職業がはっきりしていなかったため、入学してから広い選択肢を得られ、かつ学費も安い国立大学に進学したいと考えていました。また、国語に苦手意識があったので二次試験で国語を使わず数学で受験することのできるという点に魅力を感じ、高校1年生の頃からお茶の水女子大学を第一志望の大学として目指してきました。

【生活の記録】

(高3 平日 部活あり)

5:30-6:30 起床・朝食、6:30 出発、

7:15-8:30 登校・勉強、8:30-16:30 授業、17:00-18:30 部活、

18:30-19:30 移動・夕食、19:30-22:00 塾、22:15-22:45 入浴、

23:00-23:30 ニュースを見る、23:30 就寝

移動中は眠くなってしまうため英語など耳からも情報を取り入れるようにしていました。また、学校での勉強内容と塾の内容が被らないようにバランスを意識して勉強しました。

(高3 休日)

8:00 起床、8:00-9:00 朝食・ニュースを見る、

9:00-12:00 勉強、12:00-12:30 昼食、

13:00-14:30 塾の予習、15:00-19:00 塾、

19:15-19:45 夕食、20:00-20:30 入浴、23:30 就寝

家では集中できないので休日でも塾に行くようにしていました。長く時間が取れるため苦手な暗記科目に時間をかけました。

【実力考査の対策・復習】

科目ごとの目標点を毎回考えて受け、できるはずの問題、できそうな問題で落としてしまった部分を優先して復習するようにしていました。まず自分が解けるはずの問題を確実に正解できるようにしなければ高得点は狙えないと思っていたからです。

【センター試験対策】（センター受験科目：国語、数学ⅠA・ⅠB、英語、世界史、地理、物理基礎、化学基礎）

理科基礎は高校2年生の夏休みまでに終わらせることを意識して、高校3年生の時には授業の演習と模試のみで対策が進められるようにしました。国語・数学・地理は授業での演習を緊張感を持って取り組み、そこで間違えた問題の復習も必ず行っていました。英語は長文を定期的に読み、読むスピードが落ちないように意識しました。苦手な世界史は12月まで知識の詰め込みに集中し、年が明けてから演習に取り組み、得点率が低い分野の復習をしていました。

【二次試験（記述）対策】（二次試験科目：英語、数学、小論文）

英語はいかに日本語らしく英文を和訳できるかが鍵であったので、長文を読んで分からなかった単語を調べることを欠かさず行っていました。数学は30年分の過去問が載った問題集を使用し記述の仕方を確認しましたが時間が足りなかったので私大受験の時期から取り組むべきだったと後悔しました。小論文は前期試験終了後、過去問を解いて添削してもらうことで要約と自分の意見の文量の感覚を掴みました。

【苦手科目をどう克服したか】（苦手科目：国語、世界史）

お茶の水女子大学の前期試験はセンター試験と二次試験の配点比率が1:1だったため、センター試験でも点数をしっかりとることが必須でした。そのため、苦手科目が足を引っ張らないように国語と世界史に関しては得意な友達に聞くことが多かったです。国語は主に解き方について、世界史は主に自分の理解が浅い部分について教えてもらいながら取り組みました。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

基本的に楽しみながら取り組んでいましたが、結果が思うように出ない時はやはり辛いです。また、前期試験で周りの人の進学先が決まる中で自分は決まっていないという状況は辛かったです。その時に助けとなってくれたのは同じ状況下にいる友達の存在でした。まだ頑張っている人がいる環境の中で共に取り組むことで自分も頑張ろうという気持ちになり、最後まで駆け抜けることが出来ました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

私は初め、後期で別の大学に出願しようと考えていました。しかし、もう一度よく考えた時にその大学に受かったとしても行きたいと思わなかったのが本音です。その大学に進学するなら私立大学に進学したいという気持ちが強く、それならチャンスを増やした方が良いと思い、最後の最後で後期もお茶の水女子大学に出願することを決めました。もしそこで妥協をしていたら受験が終わった今後悔していたに違いありません。つまり、この経験から後輩の皆さんに伝えたいことは“妥協するな”ということです。自分の意志を強く持って最後まで諦めずに頑張ってください。

【合格への軌跡】

4月	授業に集中する 部活や体育祭の練習で4月はとても忙しいので、授業を中心に勉強を進めていった。	夏休み前	授業の内容と塾の内容を中心に基礎固めに集中した。休日には暗記科目の知識の詰め込みをよくやっていた。
5月	受験への意識を高める 3週にわたる総体の地区大会に向けて部活の練習に力を入れる中で隙間時間を使って勉強することを心掛けた。		
6月	実力の甘さを知る マーク模試で得意な教科でも高得点をとることが出来ず、模試の復習を中心にを行い確実に解ける問題を増やしていった。		
7月	記述模試で自信を失う 主要3教科である国数英のどれも思ったように点数をとることが出来ずこれからの受験勉強に不安を感じたが、一つの模試から得るものが多くあるとポジティブに捉えて気持ちが落ちないようにした。	夏休み	1番時間をかけたのは世界史。それとともに英語の長文は定期的を読むようにして英語から離れないようにすることを意識し、数学は單元ごとにもう一度しっかりと詰めていった。
8月	暗記科目を重点的に センター試験の対策も進めながら、長く自分の時間が取れる夏休みは苦手な暗記科目に1番時間をかけた。		
9月	マーク模試で少し自信をつける 6月のマーク模試から確実に点数が上がっていることを実感でき、やってきたことが点数に繋がることで自信をつけることが出来た。	夏休み後	ひとつひとつの模試を上手く利用して目標を持ちながら勉強に取り組み、解けなかった問題を中心に復習することを繰り返し点数を上げていった。
10月	推薦入試のための書類作成 書類作成を通して志望理由などを詰めていくことで自分の将来を考え直すきっかけとなり、自分がやりたいことを確かめることができた。		
11月	推薦入試 自由英作文が約400語というとても長いものだったため、何度も書いて感覚を掴んだ。それと同時に面接のために読書をしたり実践したりという対策も進めていった。		
12月	センター対策中心に移行 推薦入試の結果が出るまでの間もセンター試験の演習に切り替え、気持ちを切らさないよう勉強に取り組んだ。	冬休み	ひたすらセンター試験の演習に取り組んだ。間違えた問題は理解するまで確認した。
1月	センター試験 今までボーダーに達したことが無かったが、前日確認した部分が出るなどの幸運が重なり本番で初めてボーダーを越えることができた。		
2月	私立入試・前期試験 私立入試は2月中旬までに終わるよう組み立て、2月の後半に前期試験の対策ができるようにした。本番は数学を失敗し、不合格を想定できた。	自由登校	学校までは時間がかかるため塾に毎日通って勉強した。自分と同じ状況下にいる仲間が近くにいたためモチベーションを落とさず最後まで駆け抜けることができた。
3月	後期試験・お茶の水女子大学に合格 二次試験が苦手な小論文のみだったため全然自信は無かったが、少し知識のある課題文が出たこともあり合格することができた。		

〔 合格体験記 〕

40期生 城之内 厚介

【進学した大学・学部・学科】

東京農工大学 農学部 生物生産学科

【他に合格した大学・学部・学科】

明治大学 農学部 生命科学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

摂食障害になった経験から食は生命に絶対的に不可欠な要素だと思い知った。このことから食について様々な方面から学べる農学部に決定した。食が家庭に至るまでには大きく分けて生産・加工・流通という3つの過程を踏む必要があり、将来はこのいずれか、もしくは複数の項目に関われる仕事に勤めたい。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

高1後半から農学部に行きたいという漠然とした意識は抱えており、高2後半に受験校を決めかねているときに、東京農工大学を運良く発見できた。あまり有名とは言えないにも関わらず、高い研究力を誇っており、実家とも近くドンピシャな大学だと思ったので、第一志望とした。

【生活の記録】

・高3部活あり

7:30 起床・朝食	8:00 登校	8:30-16:00 授業
16:00-18:30 部活	18:30-21:00 勉強	21:30 入浴
22:00 夕食	22:30-24:00 自由時間	24:00 就寝

片道30分の通学時間には単語帳を使用した。部活が終了したら市民センターに移動し勉強した。自由時間ではその日のやる気によって勉強するか、そうでないときはスマホに手がのびていた。

・高3休日

7:30 起床・朝食	8:30 登校	9:00-12:00 勉強	
12:00-13:00 昼食	13:00-17:00 勉強	17:30-21:00 勉強	
21:30 入浴	22:00 夕食	22:30-24:00 自由時間	24:00 就寝

自宅では勉強できない質なので、休日も登校して勉強していた。学校が閉まったら市民センターに場所を移し再び勉強した

【実力考査の対策・復習】

模試直前には過去問を仕入れて解くようにしていた。受けた後は間違えた箇所を何故間違えたか理解してから解き直し、特に苦手な箇所は問題集の類題を解いて慣れることをしていた。また自分はケアレスミスが多いため、早く解いて見直しの時間を捻出する練習をしていた。

【センター試験対策】（センター受験科目：国語、数学ⅠAⅡB、英語、化学、生物、日本史）

センター試験1ヶ月前に対策を始め、国語と日本史に特に時間を割くようにした。センター現代文はクセが強いので「決めるセンター現代文」を重宝し、古典は単語、句法を暗記した。日本史は黄色本を使用した。追試は理系科目のみ解いた。これらがある程度頭に入ったら過去問を解くようにしたが、本番では目標の点数がとれなかったため、基礎の確認の不足や、対策期間が短さを感じた。

【二次試験（記述）対策】（二次試験科目：数学、化学、生物、英語）

化学・生物は教科書と資料集で根本を理解してから、リードαと重要問題集で演習した。数学は青チャートを中心としてたまに重要問題集に手を出していた。英語は空いた時間に単語帳やvintageを使用し、また1日1個長文を解くとノルマを決めるようにしていた。

【苦手科目をどう克服したか】（苦手科目：数学、古典）

数学は解法が全く思いつかないことが多かったため、解法暗記を試みていたが、最後まで克服することは無かった。古典は基礎事項を暗記した後、過去問を解き続けると徐々に点数が上昇し、8割近くで安定するようになったが、本番では散々な結果であった。苦手は克服することは無かったが他の科目でカバー出来たと思っている。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

夏休み前までは大体の志望校にE判定を喰らっていたため、ずっとこのままなのではという不安を抱えていた。また、長時間勉強を続けているとふと集中が切れることがあり、ボーっとしたまま座っていることもあったが、その際には友人と他愛もない会話をするこゝで集中力を回復することができた。夏休み後はモチベーションが低くなってしまい、一時期決まった時間に会話を挟むこともしていた。受験は団体戦である。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

苦手な科目を得意な科目でカバーできたことである。理科、特に生物が好きで、夏休みでは多くの時間を割き、教科書・資料集を読み込んだ。農工大は理科の配点が高いため数学の負債を理科で返済することができた。好きな科目は得意科目に出来る可能性が高いと思うので、科目選択では何に興味があるのかを軸にして考えた方が良く、第三者の考えを鵜呑みにして軽率に科目選択をすることは非常に危険である。自分の感性に従うことが合格への第一歩である

【合格への軌跡】

4月	受験生であることを自覚する。 部活に体育祭と、てんてこ舞いだったが、市民センターにいる時だけは集中するよう心がけた。	夏休み前	理科・数学の基礎をリードα・青チャートでひたすらに固めていた。高2末まで勉強に対する意識が低く、理解が追いついていない分野がほとんどだったため、苦勞したが、その分吸収することが多く、勉強が楽しくなるのを実感できた。
5月	燃え尽き症候群 体育祭後はやる気が消失し頭を切り換えるのに苦勞し、思うように勉強できなかった。		
6月	引退 部活を引退することで受験のみに集中できるようになり勉強に火が付いた。また勉強が楽しいと思えるようにもなった。		
7月	やる気の右肩上がり 模試での判定に E 以外のアルファベットがつくようになり、友人と判定を見せ合うことでモチベーションを上げるようにした。	夏休み	理科・数学は引き続き基礎をやりつつも、重要問題集を用いて応用力を高めるよう努めた。英語は友人から指摘されるほど勉強から逃げていたため、長文を1日1個長文解くようにし、徐々に長い長文に手を出すようにした。古典・日本史に危機感を覚え始め、単語帳・教科書をめくるようにした。
8月	ピーク 最もやる気があった時期である。応用問題や過去問に少しずつ手を伸ばすようにし、特に生物では習っていない範囲を自分なりに理解することをしていた。		
9月	新たな範囲の吸収 授業が再開し、習ったことを頭に入れるので精一杯だったが、引き続き実践力を上げるように努めた。	夏休み後	勉強に飽きを覚え始めたため、大学の過去問に手を出すようになり、新鮮な気持ちを持つように心がけた。解説を読んでも訳が分からない問題に出会うことも少なくなき、そういうときは絶対に放置せず、友人と相談したり、先生に質問することで、自分なりに解釈するようしていた。
10月	やる気の右肩下がり モチベーションの低下が始まり、いわゆるスランプの時期であった。勉強するのが苦しくなり、休憩と称してサボることも多くなった。		
11月	過去問に励む 志望校とレベルが近い大学の過去問を解くことで、勉強に再び楽しみを見いだすことが出来た。		
12月	センター対策 過去問をひたすら解き続け、国語は18年分、他の科目はおおよそ10年分解いた。二次の勉強よりも苦痛に感じる事が多く、辛かった。	冬休み	勉強に飽きを覚え始めたため、大学の過去問に手を出すようになり、新鮮な気持ちを持つように心がけた。解説を読んでも訳が分からない問題に出会うことも少なくなき、そういうときは絶対に放置せず、友人と相談したり、先生に質問することで、自分なりに解釈するようしていた。
1月	本番での失敗 センターは合計696点と目標の8割には届かなかった。辛かったが志望を変えることなくふんばることにした。		
2月	理想とはほど遠い 私大は3個受けて2個落ち、国立前期も芳しい出来とは言いがたかった。受験では自信を持って帰宅することが一度も出来なかった。	自由登校	毎日登校し、自習室や教室などで勉強していた。集中するという目的もあったのだが、友人と顔を合わせていないと気が狂いそうだったのである。仲間と励まし合うことで何とか最後まで気を保つことが出来た。
3月	東京農工大学に合格 後期の勉強には全く手が付かなかったが、それでも合格が分かるまでは登校して机に向かうようしていた。		

〔 合格体験記 〕

40期生 藤井 圭吾

【進学した大学・学部・学科】

一橋大学 経済学部 経済学科

【他に合格した大学・学部・学科】

慶応義塾大学 商学部 A方式

明治大学 政治経済学部 経済学科（センター利用七科目、全学部統一）

法政大学 経済学部 経済学科（センター利用C方式）

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

大学では経済を学びます。また一橋は他の学部の授業も取れるので、法の歴史についても学びたいと考えています。将来的には金融系の企業、もしくは公務員になりたいと考えています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

高1までは筑波大学を目指していましたが筑波大学よりも難しい大学に行くつもりで勉強しないと筑波大学には入れないと思い、より上の一橋大学を目標にしました。実力がついてくると一橋大学に行きたいと本気で思うようになり一橋大学を第一志望にしました。

【生活の記録】

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 平日			起 床	準 備	登 校 等				授 業					勉 強	夕 飯		勉 強		入 浴		就 寝	

通学途中のバスのなかでは英単語や日本史などの軽い暗記系の勉強をし、学校では勉強の時間をなるべく多く取れるように昼休みなども活用しました。また4時半から6時までは数学の勉強をする、などのように毎日決まった時間に決まった科目を勉強しました。

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 休日				起 床	準 備		勉 強	休 憩						勉 強			夕 飯	勉 強	入 浴		就 寝	

休日なるべく学校の自習室や市民センターを活用するようにし、勉強と休憩のメリハリがしっかりとつくように休憩時間を決まった時間に設けました。また夏休み前は平日の勉強と同じ内容の勉強を、夏休み以降は過去問演習を中心に行いました。

【実力考査の対策・復習】

学校の考査は直前に一気に片付けました。模試は日々の積み重ねが対策です。模試は基本的にすぐ模範解答が配られるので数学と日本史を中心にその日に復習をしました。数学は解けなかった問題や間違っていた問題の解きなおしをしてそれでも分からないときは答えを見てしっかりと理解しました。日本史は間違えたところを教科書や資料集で見直しました。

【センター試験対策】(センター受験科目：英語、数学ⅠAⅡB、国語、理科基礎、日本史、倫政)

一橋大学はセンター配点がかかなり低いので12月までは授業以外のセンター対策はしませんでした。12月以降は点数を稼ぎやすい理科基礎と倫政を中心に勉強しました。理科基礎は参考書を三周ずつ回し、倫政は教科書を何周も隅々まで読みました。国数英はセンター独特の形式になれるために過去問やセンター対策の問題集をひたすら解きました。

【二次試験(記述)対策】(二次試験科目：英語、数学、国語、日本史)

(英語)夏休みまでは塾で色々な大学の長文問題を出題、採点してもらい長文馴れと解答の精度上げをしました。夏休み後は過去問の長文を20年分を二回ずつやりました。センター後は英作文の添削をしてもらいました。リスニングは合間合間にシャドーイングで勉強しました。

(数学)夏休み前は青チャートで基礎固めと典型問題の暗記をし、夏休み後から過去問20年分や文系数学プラチカを使い応用問題に触れるようにしました。

(日本史)秋までに教科書の熟読と学校配布の問題集や東進の1問1答を使った学習で基本事項をしっかりと覚えめました。秋からは過去問を解き、添削してもらいました。また過去問演習で頻出テーマを把握し、資料集を使ってそこを重点的に勉強しました。センター後は青本や赤本の模範解答を丸暗記しました。

(国語)配点が高いのと水物であることから特に対策しません。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目：国語(特に現代文))

塾で要約の練習を中心に少し勉強しましたが、これといった対策はしませんでした。古文は古文上達などの参考書を使ってとにかく問題数をこなしました。苦手教科に向き合わなかったことは少し後悔があります。もし向き合っていればもっと楽に戦えていたと思います。後輩の方達には僕を反面教師にして苦手教科と向き合ってください。古文は高2の冬の間単語と文法を覚え、高3から参考書で読み方を身につけ、難易度高めの問題集を解きました。漢文はとにかく句法を暗記しました。古文と漢文が取れるとセンター国語に関してははだいぶ楽になると思います。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

いつも共に勉強してきた僕の戦友が先に推薦で受かったときは嬉しさの反面色々な気持ちがこみ上げ辛かったです。そのあと一般受験の友達と団結して励まし合いながら乗り切りました。また、成績が中々伸びず周りの人に成績で負けたときは悲しかったです。そんな時は人に悩みを話してストレス解消しました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

英語や日本史などのやればできるようになる教科をしっかりと勉強した事が合格の要因だと思います。高2までは英語が最も苦手な教科でしたが、受験期には最も得意な教科となりました。このように英語はやればやっただけできるようになります。また日本史も一回覚えてしまえば安定していい点数を取れます。文系は英語や歴史で決まることが多いので英語や歴史をしっかりと勉強すれば有利に受験を進められるかもしれません。

勉強は量より質という人がいますが、そんなことができるのは一握りの人だと思います。僕のような凡人は質も量もある勉強が必要です。努力は裏切らないとまでは言いませんが、努力すればするほど成功する確率は上がると思います。凡人ならばとにかく勉強量を増やす、これに尽きると思いました。

あともう一つ言うならば高1、高2の内はかなり高い大学をとりあえず志望したほうがいいと思います。モチベ、やる気も上がりやすいと思うので、

【合格への軌跡】

4月	<p>体育祭 旅行や体育祭練習であまり勉強時間が確保できなかった。合間を見て勉強した。</p>	夏休み前	<p>数英日本史の基礎固めを徹底的におこなった。数学は青チャートI A 2 Bの完成、英語は東大単語帳と長文読解系の参考書の完成と、日本史は教科書1冊の暗記を目標にして取り組んだ。二次配点を見て比重が大きい順に勉強時間も多く取るようにした。</p>
5月	<p>初めてのマーク模試 始めてマーク模試を受ける。判定はC判定と微妙だったが一橋のセンター配点を見てセンター対策を後回しにすることにする。</p>		
6月	<p>焦り 駿台全国模試 331/800 難関大用の模試を受けショックな成績を取ってしまいかなり焦る。</p>		
7月	<p>停滞 各教科でそれぞれ目標をもって取り組んでいたが殆ど達成できなかった。夏休みに一気に片付けようと決める。</p>		
8月	<p>夏休み 一番やる気があり、寝るか勉強するかの生活を送っていた。このあたりから過去問や難関大の問題を解き始めた。</p>	夏休み	<p>新しく参考書を買って、夏休み中にそれを終わらせることを目標にした。また塾や市民センターに必ず行くように決め気が緩まないようにした。</p>
9月	<p>成績向上 駿台全国模試 448/800 一橋大学B判定 夏休みの成果がここででて一気に成績が上がる。</p>	夏休み後	<p>過去問演習を本格的に始めた。配点が高い数英は20年分、そこそこの日本史は10年分を目標にして演習をした。11月に入ると一橋の過去問はほとんど解いてしまったので早めに私立の過去問も10年分を念頭に解き始めた。</p>
10月	<p>一橋実践・オープン 一橋実践 390/790 B判定 一橋オープン 347/790 C判定 微妙な成績だったが判定がそこまで酷いわけではないので志望は変えなかった。</p>		
11月	<p>過去問演習 11月からは数英だけでなく日本史も解き始める。少し中だるみする。</p>		
12月	<p>センター対策 河合マーク 706/900 駿台マーク 721/900 全然点数が伸びず焦りを感じる。焦りが追い込みに繋がる。</p>	冬休み	<p>とにかくセンター対策に全てをそそぎこんだ。倫政と理科基礎を完成させ、苦手なセンター数学は毎日1題ずつ解くようにした。追い込みだと思い極力時間を勉強に割いた。</p>
1月	<p>センターを固める センター792/900 大の苦手のセンター試験で自己ベストを更新し一気にモチベが上がる。</p>	自由登校	<p>平日休日共に必ず学校や市民センターに行った。また勉強の合間に友達とお喋りをして受験の不安やストレスを共有することで少し気持ちを楽にすることができた。また受験前日は勉強をせずホテル周辺のレストランでご飯を食べたようにリラックスしてすごした。</p>
2月	<p>私立受験失敗 私立本命の2校に落ち、かなりショックを受ける。ここからあまり勉強に手が付かなくなる。</p>		
3月	<p>一橋合格！ 二次では自分の実力を出しきることができ、無事に合格した。</p>		

[合格体験記]

40期生 野口 智哉

【進学した大学・学部・学科】

東京大学 理科一類

【他に合格した大学・学部・学科】

慶応義塾大学 学門 A

東京理科大学 工学部 機械工学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

明確には定まっていませんが、便利で役に立つ物をつくれたらなと思っています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

高1の時から漠然と志望していました。良い環境で学びたいという思いがあり、高2の夏休み位から目標をしっかりと東京大学に決めました。

【生活の記録】

高3 平日部活あり

6:30 起床

7:30 登校 8:30-16:00 授業 16:00-18:00 部活

19:00 帰宅

19:00-22:00 夕食、入浴、勉強

部活のある日に勉強できるのは帰宅後の2時間にほぼ限られていました。このため毎日コツコツと勉強していました。食事や入浴を勉強の息抜きにしていました。

高3 平日部活なし

6:30 起床

7:30 登校 8:30-16:00 授業 16:00-18:00 学校で自習

18:00-21:00 市民センターで自習

21:00-23:00 夕食、入浴

自宅で集中することができなくなってからは自宅で勉強することはなくなりました。友達と同じ場所で勉強してたまに話すことが良い息抜きになりました。

【実力考査の対策・復習】

直前に特別な対策をすることはありませんでした。その日のうちに復習をしました。成績表が返ってきた後は、得点や判定に少し一喜一憂した後に思わぬ弱点がないか確認しました。

【センター試験対策】（センター受験科目：国語、数学 1A2B、英語、物理、化学、倫理政経 ）

国語は授業でセンター対策ができました。倫理政経は授業にあわせてインプットをきちんとしたので十分対応できました。それ以外の科目はセンター1週間前から過去問を始めました。国語を除いて2次試験の勉強がきちんと進んでいればセンターはとけるので、センター対策は最小限にとどめました。

【二次試験（記述）対策】（二次試験科目： ）

夏休みが終わってから過去問を始めました。大学がどの程度の問題を出してくるのか把握しました。大体の過去問は2回ずつ解きました。直前期には多くの先生に添削をしてもらいました。

【苦手科目をどう克服したか】（苦手科目： ）

期試験ごとに曖昧な点はあるので特別苦手な科目はありませんでした。嫌いだった理論化学は定石を押さえることにとどめました。とても得意な科目もなかったので、バランスよく得点することを心がけていました。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

友人と一緒に勉強することが心の支えになりました。模試の成績が悪いと少し落ち込みましたが、失点原因を分析して冷静に判断しました。前期の後だけは勉強する気が全く起きず、市民センターで後期組と長時間談笑することもそこそこありました。ただ机にだけは向かおうと努力しました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

地方にいと情報があまり入ってきません。そのため学校の先生、インターネット、予備校、通信教育など何でもよいですが信頼のできる情報を集めることが案外重要です。

学校のカリキュラムや使用する教材を先生に聞いておくことをおすすめします。40期では英単語帳の配布がなく、それで苦労した友人を知っています。

目的と手段を混同しないことも大切です。闇雲に問題を解いて後悔した記憶があります。

ケアルミスを集めたノートを作成をおすすめします。私は作らなかったのですが、最後までケアルミスに苦しめられました（本番で希ガスの価電子の数を間違えたりしました）。自分のミスの傾向は理解しておくべきだったと反省しています。

大まかな予定を立てて勉強しました。情報を集め、いつ何をどう取り組むか考えていました。

授業の内容をきちんと理解することが大学受験の大前提です。自分で発展的な内容に取り組むことはとても重要ですが、まずは授業が最優先だと思います。

【合格への軌跡】

4月	部活や体育祭で忙しかったが最低限の勉強はした。	夏休み前	部活と勉強の両立を心がけた。基本が大事だと多くの先輩が語っていたので、そこに時間をかけた。ここでの基本は教科書だけでなく、入試標準レベルの典型問題を解けることだと思います。
5月	勉強を部活の切り替えをしっかりと。過去問には取り組まず、基本事項や定石を身に着けることに集中した。		
6月	部活を引退し、勉強漬けの日々が始まった。5月とやることは変わらなかったが学習スピードが当然高まり、夏休み明けから過去問に取り組むことを目標にした。東大模試を受験しモチベーションを高めた。		
7月	過去問が気になり、1年分だけ解いた。時間配分や大まかな難易度を把握した。	夏休み	夏休み後から過去問に自信をもって取り組めるように勉強しました。ずっと自宅で勉強していたのですがおそらく効率は良くなかったので、学校で勉強すればよかったなと思っています。
8月	東大模試を受験した 河合塾 180/440 C判定 駿台 232/440 A判定 同じ人間が受けたとは思えない成績だったので、気にすることはやめて今後の勉強方針を考えた。		
9月	過去問に本格的に取り組んだ。数学を失敗しても合格できることを意識し始めた。	夏休み後	過去問を始めました。問題自体が面白く、モチベーションを高く保って勉強できました。学校や市民センターで勉強を始め、自宅で勉強することはほぼなくなりました。
10月	各科目の注意ポイント（例えば物理は最初の計算ミスが大失点につながる）を理解し、本番の大失敗を避けることの大切さを理解した。社会の復習もちまちまやった。		
11月	11月 周りはセンター一色だったが、センターの配転が低かったので2次対策を継続した。		
12月	12月 河合塾 217/440 A判定 駿台 174/440 C判定 同じ人間が受けたとは思えない成績だったが実感として力はあると思えたので、成績を安定させることを意識した。		
1月	センターの過去問をとりて本番に臨んだ。目標点は確保したものの、ケアミスが多発し後悔が残った。	冬休み	過去問に取り組みました。勘違いで失点して、実力通りの点数が出せていないと思ったので時間無制限の演習をすることもありました。
2月	受験ができないと合格できないので、目覚ましを3つ持っていった。	自由登校	直前講習に積極的に参加しました。添削指導は大きな効果を発揮すると思いますし、教科ごとのバランスをとることも役立ちます。
3月	後期の勉強には全く集中できなかった。受験勉強の中ではここが一番つらかった。		

〔 合格体験記 〕

40期生 上坊 志緒

【進学した大学・学部・学科】

東京工業大学 物質理工学院

【他に合格した大学・学部・学科】

慶応義塾大学理工学部学問 E

立教大学理学部化学

上智大学理工学部物質生命理工

明治大学理工学部応用化

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

文房具が好きで、それに携わる仕事をしたいと考えています。文房具や家電を作る側に立つために大学では幅広い物質・材料について学んでいきたいです。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

関東圏内の国立大学を第一志望にしたいと考えていたので、東京工業大学にしようかなと考えていて、その気持ちは変わらず、高校3年生の春くらいに前期で東京工業大学を受けようと決めました。

【生活の記録】

・高3平日部活あり

6:30 起床・朝食 7:30 登校 8:30-16:00 授業

16:00-18:00 部活 19:00 夕食 20:00 入浴

21:30-23:00 勉強 23:30 就寝

電車通学だったので、20分くらいの乗車時間に単語帳を開いていました。夜は、主に理系科目を勉強していました。

・高3自由登校日

7:30 起床・朝食 9:00-12:00 勉強 12:00-13:00 昼食

13:00-19:00 勉強 19:00-20:00 夕食 20:00-22:30 勉強

23:00 入浴 24:00 就寝

通学時間をなくすのと、夜遅くまで自宅以外の場所で勉強するために近場の塾へ通い勉強していました。勉強に飽きたら五分くらい息抜きをするといいです。

【実力考査の対策・復習】

受ける前に、公式とか無機とかの知識を再確認して、テストにのぞみました。受けた後、計算問題は答えが合うまで解きなおしをして、英語とかは、間違えた部分をノートにまとめて次のテストの前とかに確認していました。

【センター試験対策】（センター受験科目：国語、数学ⅠAⅡB、英語、物理、化学、地理）

センターがあまり重視されていない大学を志望していたので、授業内でする対策と、数学と理科は2週間で一周するペースで演習をしていました。直前に国語と地理に重きを置いていたので、数学をもう少しやっておけばよかったなと思っています。

【二次試験（記述）対策】（二次試験科目：数学、英語、物理、化学）

夏休み中に一年分くらいやって、問題形式を理解する。年末くらいに少し過去問を解いて、センターが終わるとひたすら過去問を解きました。自分の弱いところを早めにつぶしておくことが重要だと思います。

【苦手科目をどう克服したか】（苦手科目 国語・英語）

国語はセンターだけなので、その記号を選んだ理由がつけられるように演習を重ねました。英語は、単語力が欠乏していたので、同じものを二日繰り返し、勉強ではなく作業として学ぼうと思ってやりました。志望校を広げるためにも英単語と苦手科目は早めからやっておくことを勧めます。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

自分は計画を立てるのが苦手なので、一日何ページやるとか、何問やるかを決め、時間帯を決めておくと習慣化されていきました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

勉強に集中できる環境と、一緒に頑張る友人と、相談できる人のおかげです。いきなり難しい問題は解けないので、徐々にレベルを上げました。英単語は早めに毎日続けてください。あとは、娯楽の時間は減らして友人との会話を楽しんで、オンオフを明確にすればいいと思います。

【合格への軌跡】

4月	受験勉強スタート 体育祭準備をする中、受験を意識した勉強を始めた。	夏休み前	自分の弱点を挙げていき、 have to リストを作って基礎固めをするために問題集演習をしました。
5月	記述模試の英語が悪いことに気づく。 マークでは点数が取れるのに、記述では取れない。単語力の弱さを痛感する。		
6月	勉強に集中 部活動を引退して、勉強だけに集中するようになった。		
7月	苦手つぶし 苦手なところを重点的につぶした。		
8月	東北大オープン模試 東工大の模試はまだないので、ほかの外部模試に挑戦。(431/800)	夏休み	過去問を1年分解いた。生活習慣を崩さないようにして、一日にすることを決めて勉強していました。
9月	台風がきた。 台風の被害にあって、リズムが乱された。自然災害だからしょうがない。	夏休み後	センター対策よりも記述対策をメインに勉強していました。はじめは地方国公立大学の問題から徐々に難しくしていきました。
10月	東工大模試 やはり難しかったけれど、自分の立ち位置が良く分かった。(309/750)		
11月	記述対策 難しめの二次試験問題を解き始める。		
12月	センター対策 センターの対策をしながら、二次試験の対策も。		
1月	センター、私立対策 センターで少し失敗したけれど、切り替えて私立の過去問を解きまくる。		
2月	私立大入試と国公立二次試験 赤本を直前までやって、あと試験はいつも通りに、やれることをやるだけ。	冬休み	年末は二次の過去問を解きながらもセンター対策に力を注ぎました。年明けはとくに国語と地理を。
3月	東京工業大学に合格。	自由登校	家の近くの塾で朝から夜まで勉強しました。(ご飯の時は家に帰るけれど) 家だと、ベッドという魔物がいるので。勉強に対しての苦痛がいつの間にかどっかへいついていた。私大の赤本は試験日程が近いと最後しわ寄せがくるので、そこを見越して夏休みとか冬休みにやっておくといいと思います。

〔 合格体験記 〕

40期生 伏見美春

【進学した大学・学部・学科】

金沢大学 人間社会学域 地域創造学類

【他に合格した大学・学部・学科】

なし

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

具体的には決まっていますが、大学では社会学を学び、地方創生に携わった職につきたいと考えています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

進路を考え始める高1の頃から社会学系を学びたいと考えていました。第一志望は違う大学でしたが、センターリサーチの結果と二次試験の配点を見て、興味のある学部の中で判定の良かった金沢大学に志望を変えました。

【生活の記録】

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
平日				起床	登校	学校										勉強	夕食	自由時間	勉強	入浴 自由時間	就寝	

私は集中力が無いので、時間を区切って、自由時間を挟みながら勉強してました。

	時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
休日				起床	朝食	勉強			昼寝	自由時間	勉強			自由時間	夕食	勉強	入浴 自由時間	就寝				

家での学習の方がやりやすかったので、家で勉強しました。

【実力考査の対策・復習】

模試が終わった直後に間違えた問題を中心に解き直しをしていました。マーク模試では、たまたま当たることもあるので、間違いの選択肢も、何が違うのか説明できるように解き直しをしました。

【センター試験対策】（(国語・英語・数学 1A2B・日本史・地理・化基・地基)

国語や地理、理科基礎は、授業で早くからセンター演習をやっていたので、授業中に理解する様にして、12月くらいまでは家ではあまり勉強していませんでした。暗記系のは、分からないものにチェックをつけて覚えるまでやりました。

【二次試験（記述）対策】（英語・国語）

私はセンター試験後に志望校を変更したので、1月になってから初めて過去問を解きました。自由登校になってからは基本的に学校の図書館で勉強して、過去問をそれぞれ先生に添削してもらいました。記述は一人でやるより添削してもらったほうが絶対伸びると思います。

【苦手科目をどう克服したか】（数学 2B・日本史）

私は、苦手科目は高得点を取る必要はないと思ったので、基礎問題を落とさないように勉強していました。日本史は内容が多く授業が終わるのが12月くらいなので冬休みに集中して1問1答を使って勉強しました。しかし、数学のチャートも1問1答も、センター試験までに分からなかった問題を全てやり切ることは出来なかったのもっと早くからやった方が良かったと思います。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

周りの友達が推薦で合格していくのは辛かったですが、大学生になったらやりたいことをモチベーションにしたり、毎日自由時間をつくってテレビを見たりして息抜きしていました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

志望校を変更したのはすごく大きいと思います。私は第一志望のセンターリサーチがD判定で二次試験も自信がなかったし、国公立志望で浪人もしたくなかったので志望校を変更しました。よくD判定、E判定からの逆転合格の記事を見ますが、実際そういう人は稀だと思うので、自分が納得出来るなら、判定結果によっては志望校を変えることも検討してみるのも良いと思います。

【合格への軌跡】

4月	本格的に受験勉強を始める。 毎日勉強する様にした。	夏休み前	高2までほとんど、自習をしていなかったの で、最初は長時間勉強するのに疲れていま したが、だんだん慣れました。
5月	高3になってから、初めての模試があつた が、あまり出来なかった。		
6月	模試で確認出来た苦手分野を中心に基礎固 めを始める。		
7月	基礎固めを継続しながら、夏休みの計画を立 てる。		
8月	基礎固めを継続しつつ、問題演習も始める。	夏休み	1日8時間を目標に勉強したが、達成出来な かった日も多かったです。
9月	学校のある生活に戻ってから勉強時間が減 ってしまった。	夏休み後	学校が始まってから、学校に行くのに疲れて 勉強時間が減ってしまいました。 模試で成績があまり上がっていなかったの で、不安になりました。
10月	英語の長文や国語の記述など、二次対策を中 心に勉強した。		
11月	苦手科目の成績が伸びず、不安になった。		
12月	センター試験対策に集中する。 センター試験形式の問題演習をした。		
1月	センター試験まで新しい事は覚えず、復習を 繰り返した。センター試験後に志望校を変更 した。	冬休み	センター試験対策を重視して勉強しました。
2月	先生に頼んで、過去問の添削をしてもらっ た。	自由登校	生活リズムを崩さないように、学校の図書館 で勉強していました。 友達と話すが、息抜きになりました。
3月	大学に合格		

〔求めよ、さらば与えられん。〕

40期生 佐藤 孔明

【進学した大学・学部・学科】

京都大学 文学部 人文学科

【他に合格した大学・学部・学科】

明治大学 文学部 文学科 英米文学専攻
立教大学 文学部 文学科 英米文学専修

中央大学 文学部 人文社会学科
法政大学 文学部 英文学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

学部という枠組みに囚われず様々な分野の知識を得たい。将来は大学教授になり自分の一生を学問を究めるために費やしたい。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

もともと文学部を志望しており、大学教授を目指していたのに加え、高2と高3の始めの模試で結果がよかったこともあり、京都大学を第1志望にした。難しいことだとはわかっていたが、その意識を利用して勉強のモチベーションを保った。

【生活の記録】

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 平日			起床 朝食	勉強				授 業						部 活		勉 強		夕 食 入 浴	就 寝		

部活がある日は3時間、部活のない火曜日と高3の11月以降は5時間勉強していた。朝は移動中の車内と自習室で、部活後は市民センターに行き集中できる環境に身を置いた。睡眠は決して削らないように家に帰った後は勉強をせずにすぐに床に入った。

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
高3 休日			起床	朝食		部 活		昼 食				勉 強						夕 食 入 浴	就 寝		

休日も学校の自習室や市民センターで勉強をした。まとまった勉強時間がとれるので、過去問や問題集を解き1週間の進捗を確認し、演習量を稼いだ。

【実力考査の対策・復習】

最初に、試験範囲内のノートやプリントに目を通し、全体を確認してから抜けのないように時間配分をあらかじめ定めた。出来なかった部分はそれだけをまとめて、後からスラスラ解けるようになるまで何度も復習した。出来た箇所も日をあけてから忘れていないかをチェックした。

【センター試験対策】(センター受験科目：国語 数学1A2B 英語 世界史 倫理政治経済 物理基礎 化学基礎)

授業や夏期講習によって演習量を稼ぎ、苦手な科目や分野は問題集を買って対策した。科学基礎や社会科目は早いうちに終わらせ、センター試験直前期には、得点率が大きく変動する国語と数学だけに集中できるようにした。

【二次試験(記述)対策】(二次試験科目：国語 数学 英語 世界史)

夏休みに過去問を解き、不足している学力を得るために必要な参考書や問題集を買って、11月までそれらを使っていた。センター試験後は過去問だけを解き、時間配分や問題を解く順番など、本番のシミュレーションを実施した。また、その答案を先生に添削してもらい、自分では見逃していた間違いの発見に努めた。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目：数学 古文)

数学は、夏休みに青チャートで解法暗記をし、9月に入ってから11月までは、問題集をひたすら解いた。古文も問題集を解き、演習量を稼ぐとともに、その過程で古文常識や古文単語などの知識を得た。数学も古文も演習量が増えるにつれ類似問題が増え、解ける問題も多くなったことで、苦手意識が薄まった。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

10月末まで部活を続けていたために、他の人の合格経験記をほぼ参考にできず苦労した。それ故にひたすら過去問を解き、ゴールから逆算して勉強計画を立てることで効率的に勉強ができた。また、時間ではなく勉強の達成度をノルマとして計画を立てた。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

得意科目を1つつくっておくことで受験勉強中ずっと、特に受験直前期の負担がとても減った。1つの科目を磨くことは比較的容易であるし、それによって自分の成長を実感でき、その後の受験勉強のモデルケースともなるので、是非おすすめしたい。そして受験で何よりも重要なこと、それは合格に必要なレベルと自分のレベルを理解し、何が自分に足りないのかを完璧に把握することだと思う。自分のことを一番わかっているのは自分。誰が何と言おうと自分を信じてやり抜くことが大事。他人や学年順位、模試での偏差値で決めた第1志望では、モチベーションは維持できないと思う。

【合格への軌跡】

4月	四月は君の嘘 体育祭の朝練で、朝の勉強時間が確保できなかったが、部活後の2時間の勉強に全力を注いだ。	夏休み前	とにかく基礎を固めることに努めた。この時期から毎日の計画を立て、効率を求めた。余裕のある計画を立てたので、想定外のことが起きても計画に圧迫されることは無かったのはよかった。
5月	基礎は大事 英単語や青チャート等を使って基礎をインプットした。		
6月	目標は決まった 模試の判定で、千葉大の判定がAかBで安定していたので第1志望を京大に変更した。(京大の判定はEだった。)		
7月	夏への扉 京大の過去問を1年分解き、ネットの情報を加味して夏休みの学習計画を立てた。		
8月	苦手を無くす 苦手な数学や二次試験で配点の高い和文英訳の参考書を周回した。	夏休み	1週間毎に3, 4冊の参考書に絞り、ひたすらそれらを周回するというのを繰り返した。難しい参考書だったので、初見は大変だったが、それ故に繰り返すことは効果的だった。
9月	長月は名ばかり 部活に加え国体の練習会があり、あまり勉強時間は取れなかったが、期末考査の学習専念期間を使い数学に力を入れた。	夏休み後	夏休みから英語と数学は継続して勉強していたが、それ以外の科目は期末考査の勉強と合わせておこなった。これは、合格に必要なレベルと自分のレベルから決めた学習計画であったが、今振り返ってみても正しかったと思う。この時期の勉強は二次試験直前の過去問を解くときに生きた。
10月	10月は二次対策 今まで手をつけていなかった古文や現代文に力を入れた。		
11月	駿台の京大実践模試はE判定 部活が10月末まであり、過去問を本格的には解いていなかったため、あまり重くは受け止めなかった。		
12月	センター対策一本化 センター対策だけに絞り、センターの過去問を使ってセンター試験に慣れた。		
1月	センター本番 センターは8割6分だった。過去問を解いていたおかげで本番は緊張しなかった。	冬休み	問題を解く時は時間を測り、本番の解き方をシミュレーションした。
2月	国公立二次試験 本番を意識して過去問だけを解いた。試験前日は特別なことをせず、本番はチャレンジャー精神で挑んだ。	自由登校	京大文学部のボーダーから3点下だったが、MARCHはセンター利用で合格できる点数だと思われたので、後期は筑波大学に受験し外堀を埋めて、前期は京大で受験した。二次試験のために、受験する私大の数は絞った。
3月	後期対策 後期もあるので前期の結果は気にせずに勉強を続けた。		

〔 合格体験記 〕

40期生 春田 倫沙

【進学した大学・学部・学科】

青山学院大学 国際政治経済学部 国際政治学科

【他に合格した大学・学部・学科】

立教大学 法学部 政治学科

立教大学 社会学部 社会学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】

まだ明確には定まっていないので、大学で学ぶなかで自分にできることやりたいことを見つけたいと思っています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】

政治学、特に国際政治を学べる大学を調べていた時に、国際政治学と同時に国際経済学を学ぶことができ、外国語教育も盛んな青山学院大学に惹かれ、受験を決定しました。

【生活の記録】

・高3 平日部活あり

7時 起床 8時 登校 16時～18時半 部活

19時 帰宅 19時～19時半 夕食

19時半～20時 お風呂 20時～23時 勉強

主に夜は授業の復習と英語の文法書などを反復して勉強していました。寝る直前は、古文単語や英語の単語や熟語などの暗記系をしていました。そして、生活リズムを整えることが結構大事です。

・高3 休日

7時 起床 7時半～8時 朝食 9時～12時 勉強

12時～1時 昼食 14時～18時 勉強

18時～18時半 お風呂 18時半～19時 夕食 20時～23時 勉強

問題演習を中心に進めました。英語の長文の問題集を解く時間を比較的多く取りました。ただ、さすがに4時間ぶっ通しは集中力が続かないので、合間にニュース番組などの自分のやりたい国際政治に関する報道を見たりしてモチベーションアップにつなげました。

【実力考査の対策・復習】

必ず目標を設定して試験に臨んでいました。特に世界史には時間をかけ、問題集を二周し、テキストを何度も読み込みました。英語の英作文は復習に時間をかけ、使えなかった構文や言い回し、そして細かな文法の間違いや時制の不一致などを理解できるまで復習しました。

【センター試験対策】(センター受験科目：英語、国語、世界史)

英語は、学校のほかに塾でも週一回のペースで解いていました。国語や世界史はほぼ授業で解く割合が多かったです。授業での解説をよく聞き、自習時間が多かったので、授業の後すぐ復習をしていました。英語と国語は何よりも時間配分を心掛けていました。

【二次試験（記述）対策】

青学の国際政治経済学部的一般入試の英語は、要約、英作文、長文読解を90分で解くスピードが求められる問題なので、ペース配分に注意しつつ丁寧に解く練習をしていました。要約や英作文は授業でも取り扱ってくれたので、とてもためになりました。

【苦手科目をどう克服したか】(苦手科目：国語)

模試などでも全く点が取れず、次から次へと自分で問題集を買って解いていた時期もありましたが、marchレベルの大学の国語の問題はセンターの問題を解けるようになれば、高得点が取れると気づき、そこからはセンターの過去問をひたすら解きました。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

自信があった科目で点数が取れなかったときはものすごく落ち込みました。また、周りの友達が推薦で合格していくなか焦りの気持ちが増す一方でした。そういうときは、大学のホームページを見ると合格してやるという気持ちがふつふつとわき、勉強へのエネルギーへ向けました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

やはり、受験勉強というのは何か強い気持ちがないと乗り越えられないものだと思います。なので、自分がやりたいことやもっと知りたいと思うことを明確に定めると自然と合格への道が見えてきます。また常にチャレンジャーの気持ちでいることが精神を安定させ、本番もリラックスして臨めます。

【合格への軌跡】

4月	未だ受験の意識芽生えず 体育祭本部や部活もあり授業をちゃんと聞くぐらいでした。	夏休み前	平日は学校の授業の復習を中心に、休日は、時間に余裕があるので英語の長文問題を時間を決めて解いていました。また授業と授業の間の隙間時間を利用して英語の単語をコツコツ覚えました。
5月	マーク模試で自信をつける 国語はそれなりだったものの、世界史 90 英語 194 を取り調子に乗る。		
6月	自信を無くし、基礎から始める 学校でのセンター演習で続けて 8 割に届かず、文法書を照らし合わせ、ゼロからの気持ちで復習を行った。		
7月	また自信を無くす 苦手な記述模試で大失敗 記述形式の練習不足を実感する。		
8月	反復練習を重ねる 世界史は問題集、国語はセンター過去問、英語は長文問題集を繰り返し解く。	夏休み	夏期講習でやる問題の復習を繰り返しやった。夏期講習がない時期は普段できない国語をしっかりと解く時間を取り、古文や漢文の文法などの疎かになっていたところも見直した。
9月	私大対策を進める 私立の過去問を解き始める。過去問を分析し、時間配分をつかんだ。	夏休み後	夏休み明けの記述模試が大コケし、自信を失いそうになるが、その結果をなかったことにし、苦手だった英語の誤文訂正の問題集を買ったりして、とにかく回数を重ねようと思った。
10月	自信が出る センター英語の点数が安定してきたこともあり、自信がついた。		
11月	国語強化期間 国語の苦手意識を無くすため分からないところを中心に総復習。		
12月	センター過去問をひたすら解く 今まで解いていなかった世界史のセンター過去問を解き始める。		
1月	センター試験 センター利用はなかなか厳しいと思っていたので、リラックスできた。		
2月	私立一般入試 チャレンジ校のみ受けた。	冬休み	直前は世界史だったら文化史や年代、英語はアクセント、国語は漢字と暗記系に絞り勉強しました。
3月		自由登校	センター試験で 3 教科 93% を取り、センター利用で青山学院大学国際政治経済学部合格。その後は他のチャレンジ校の過去問対策を進めました。

〔 合格体験記 〕

40 期生 根本真綾

【進学した大学・学部・学科】
慶應義塾大学法学部法律学科

【他に合格した大学・学部・学科】
早稲田大学法学部、中央大学法学部法律学科、
明治大学法学部法律学科、立教大学法学部法学科

【将来の目標（進学する大学で何を学び、どういう職に就こうと考えているか）】
中学生の頃から法律に興味があり、将来は弁護士になりたいと考えています。大学では労働法を中心に法律の勉強をし、労使関係等に関する造詣を深めていくつもりですが、そのみならず、哲学や歴史等にも興味があるので積極的に学ぼうと考えています。

【受験校を意識した時期・決定した時期・決定した理由】
高校三年生の途中までは国公立大学を志望していましたが、次第に設備の充実した私立大学に魅力を感じ始め、第一志望を早稲田大学に変更しました。受験校を最終決定したのは、高校三年生の12月でした。国語が苦手科目であった私が、英語と世界史の二科目で受験できる慶應義塾大学を受験しようと決意したのもこの時期でした。

【生活の記録】

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
高3		起	準	登				授					夕			勉			入	就
平日		床	備	校				業					食			強			浴	寝

一限が始まる前や休み時間は単語帳を見るようにしていました。また、四限終了後は自習室へ行き、50分丸ごと勉強に費やしました。夕食の時間が早いのはその為です。

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
高3			起	準			勉	昼				勉			夕			入		就
休日			床	備			強	食				強			食			浴		寝

月～土曜日にみっちり勉強をして、日曜日は割と自由な曜日に設定していました。休みたいときは休んで(単語や世界史など最低限はやります)、勉強したいときは近くのカフェや市民センターで勉強しました。休日の利点はまとまった時間が取れる所なので、メインは赤本の演習でした。

【実力考査の対策・復習】

実力考査については、対策よりも復習に力を入れました。高校二年生までの考査では、英単語帳を所持していなかった代わり考査後に配られる模範解答を読み込んで、語彙の強化に努めました。高校三年生になってからは国語の復習に重きを置くようになり、解答分析は怠らないようにしました。

【センター試験対策】（センター受験科目：国語、数ⅠA、英語、世界史、倫理、生物基礎、地学基礎）
センター直前期は専らセンター国語の過去問を解いていました。授業内で行われた解説を反芻しながら、20年分を3周しました。理系科目は授業内や講習の演習を利用して、解く感覚を忘れないよう心掛けました。

【二次試験（記述）対策】（二次試験科目：英語、世界史、小論文）

受験勉強において、私が最も重視していたのは過去問演習です。特に、どれだけ志望大学の問題に適応できるかが大きなカギだと思います。過去問演習を通して出題傾向を分析したり、毎年出題されている形式に関しては、効率的な解き方を身に付け本番で確実に満点を取るための対策をしたりしました。小論文や早稲田の国語の記述問題については、赤本青本の解答を暗記して、解答作成の型を体得することに努めました。

【苦手科目をどう克服したか】（苦手科目：国語）

国語と言えば、多くの学生が勉強法に悩む科目だと思いますが、かくいう私もその一人でした。そこで、自己流の解き方を放棄して只管に先生が教えてくれる解法になれるという他力本願作戦を決行しました。また、記述問題に関しては、前述の通り解答の型を身に付けることを意識しました。文章のどのあたりをどれ位の文量で書くのかを感覚的に掴めたことで、入試本番では高得点を取ることができました。

【受験勉強をしていて辛かったこと・その辛さの乗り越え方】

高校三年生の秋頃は、思うように成績が伸びず、自分の努力が可視化されないことにとっても不安を感じていました。そんな中、自分の成績が伸びるイメージはできなかったものの、翌年の春に大学に合格しているイメージだけは漠然とできていました。そんな自分を想像しながら、不安に苛まれて何もしなければそれこそ何も進化できないと言い聞かせて勉強に勤しみました。また、普段は一人で勉強していたのですが、たまに友人と一緒に勉強することで、会話をする精神的余裕を持てたり、勉強に打ち込む姿に刺激をもらったりすることができました。

【なぜ自分は合格できたのか・後輩へ伝えたいこと】

私が合格できた理由はひとえに「適応力」にあると思います。どれだけ勉強ができたとしても、やはり問題との相性は無視できません。過去問を丁寧に分析し、私大ならば特に、大学ごとの特徴を把握して解きなれておくことが重要だと思います。また私は、推薦を使わずに一般受験で合格したいという気持ちが強かったため、受験勉強が自己肯定感を強める事にも繋がりました。一番の敵は己かもしれませんが、一番の見方も自分です。周囲への感謝を忘れず、直向きに勉強できることを願っています。

【合格への軌跡】

	受験への意識を高める		
4月	体育祭期間で忙しかったので 隙間時間の有効活用を意識した		
	受験生への過渡期		
5月	限りなくゼロに近かった勉強量を増やす ことを意識した	夏 休 み 前	家にいると怠けてしまうので、塾や学校 にるようにしました。受験を意識した 勉強というよりは、授業の復習と高1から の総復習を兼ねたような勉強だったと思 います。
	基礎固め月間		
6月	古文単語や英単語の語彙力不足を感じ、 単語帳を回し始める		
	進研記述模試		
7月	世界史で96点を取り調子に乗る		
	英語と世界史の強化	夏 休 み	学校の夏期講習を利用して起床時間など 生活リズムを維持するよう心掛けました。 6月に始めた単語のタスクも定着してきた 頃です。
8月	授業内で使用するテキストを用いて通史 の復習に時間を掛けた。英語に関しては 長文対策を行った		
	マルチタスクに悩む		
9月	期末考査の勉強と受験勉強の兼ね合い、 また模試の復習など、時間配分に気を遣 う心掛けた		
	赤本演習の本格化		
10月	12月にはセンター対策に移ろうと思って いたので、それまでの約2か月を赤本演 習に充てた	夏 休 み 後	センター対策は授業内の演習で済ませ、 自習時間は過去問の演習に充てていまし た。
	10月の演習を通して、英文法など苦手 分野が浮き彫りになってきたので、文法 の参考書を購入。演習と並行して対策。		
	センター対策の比重を増やし始める		
12月	冬休み前までは赤本演習を中心にしてい たが、冬休み以降はセンター国語の演習 にかなりの時間を割いた	冬 休 み	1日の勉強予定を考える時間さえも惜しか ったので、予め内容を決め、毎日同じス ケジュールをコンスタントに熟していま した。
	センター試験		
1月	入念に対策を行った国語で失敗し、かな り落ち込んだが、センター利用を諦め、 翌日から私大対策に切り替えた。	休 み	
	怒涛の連日受験		
2月	受験の為、2月上旬は半分くらい東京に おり、体調管理に細心の注意を払った。 慶應義塾大学に合格。	自 由 登 校	毎日学校や塾で勉強し、程よい緊張感の 中でモチベーションを保ちました。食事 の時間に友人と話すことが息抜きになっ たと思います。
	早稲田大学に合格		
3月	2月の段階では補欠だったが、追加合格 することができた。世界史で確実に得点 できたことが鍵になったと思う。		